

SONY®



BSチューナー内蔵MUSEデコーダー

MST-2000

取扱説明書

目次

お買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前に、この取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

本機をお使いになる前に

接続

操作

本機的主要な特長	3
各部の名称と働き	4
前面	4
画面表示	5
サイドウッドをはずして使用するには	5
裏面	6
リモートコマンダーRM-J134	7
電池の入れかた	7
BSアンテナをつなぐ	8
アンテナの方向/角度の調節	10
テレビ/モニターなどをつなぐ	11
接続するときは	11
マルチコネクタを持つハイビジョン対応テレビにつなぐ	12
BNCコネクタを持つハイビジョン対応モニターにつなぐ	13
ピンジャックを持つハイビジョン対応テレビ/モニターにつなぐ	14
スクランブル放送用BSデコーダーにつなぐ	15
コントロールS端子の使いかた	16
BSコントロール機能付きのソニー製ビデオデッキにつなぐ	17
オーディオ機器をつなぐ	18
デジタル音声出力端子を使って	18
HD出力/音声5端子を使って	19
MUSE機器をつなぐ	20
接続のしかた	20
ハイビジョン放送、従来のBS放送を見るには	21
好みの音声を選ぶには	22
テレビ/モニターの画面表示	22
音声について	23
表示窓の表示	25
外部入力からのMUSE信号を見るには	26
便利な使いかた	26

知っていると便利

その他

メニュー画面について	28
メニュー画面の操作	28
メニュー画面の種類	28
チャンネル設定をするには	29
デコーダー入力切替をするには	30
MUSE出力設定をするには	31
主な仕様	32
使用上のご注意	34
故障とお考えになる前に	35
ハイビジョンについて	36
ハイビジョンとは	36
ハイビジョン放送とMUSE方式について	37
ハイビジョンの原信号をMUSE信号に圧縮するには	37
MUSE方式の画像伝送方法について	37
ハイビジョン関連機器	37
MUSEデコーダーについて	38
保証書とアフターサービス	39

本機をお使いになる前に

接続

操作

知っていると便利

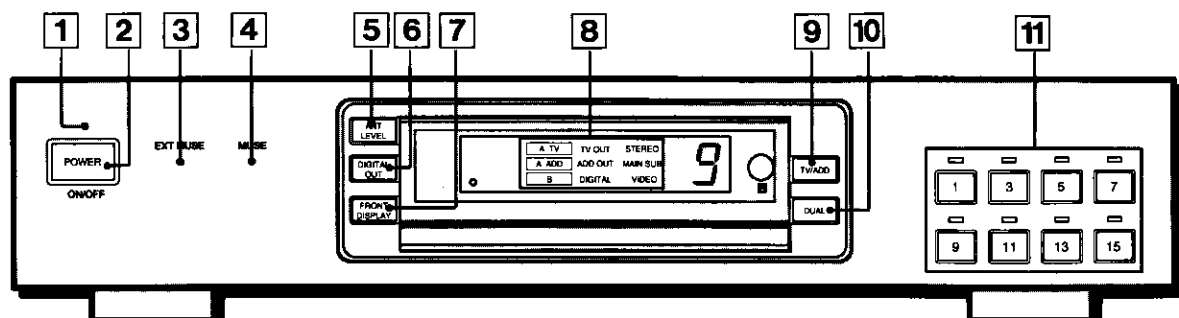
その他

本機的主要な特長

- ・MUSEデコーダーとMUSE用のBSチューナーが、両方の性能を十分発揮するよう考慮された上で一体化されています。一体化したため使用方法が簡単です。
- ・将来のハイビジョンシステムを考慮して内蔵のMUSEデコーダーに外部入力端子を備えています。そのためBS放送以外の外部入力からのMUSE信号をハイビジョン信号にデコードすることが可能です。
- ・内蔵のBSチューナーでは現行のBS放送（NTSC信号）も受信できます。その出力端子はハイビジョンの出力端子とは別になっていますので、現行のBS放送出力とMUSE信号を外部入力したときのハイビジョン信号出力が同時に可能です。そのため例えばMUSEビデオディスクプレーヤーを見ながら通常のBS放送を録画することができます。またその逆もできます。
- ・ハイビジョン放送の音声形態は、ステレオ2系統や4チャンネル（3-1）方式など多種類にわたりますが、そのすべてに対応しております。
- ・ハイビジョンの音声信号は、音声切替選択回路を通った5チャンネル出力端子（HD出力）からと、音声切替選択回路を通過していない4チャンネル出力端子（デジタル音声出力）が別々に出力可能です。5チャンネル出力では、放送音声に応じて右、左、センター、サラウンド右、サラウンド左の5つの出力端子から適切に音声信号が出るようになっています。5チャンネルのアンプ、およびスピーカーに接続してお楽しみください。スピーカーの位置については「ハイビジョンについて」のスピーカー配置例を参照してください（●ページ）。
- ・ハイビジョンの映像信号は、YPbPr形式でもGBR形式でも出力できます。

各部の名称と働き

前面



1 電源ランプ

電源が入っているときに点灯します。

2 POWER ON/OFF (電源) スイッチ

電源を入/切するときに押します。

3 EXT MUSEランプ

外部MUSE入力選ばれているときに点灯します。

4 MUSEランプ

MUSEデコーダーへMUSE信号が入力されているときに点灯します。

5 ANT LEVELボタン

BSアンテナの方向を調節するときに使います。

6 DIGITAL OUTボタン

裏面のデジタル音声出力端子から信号を出すか出さないかを選びます。端子から信号が出ているときは、表示窓の「DIGITAL」が点灯します。

7 FRONT DISPLAYボタン

表示窓の表示を消したいときに押します。お部屋を暗くして映画を楽しむときなど、表示が必要ない場合に使います。もう一度押すと、また表示が出るようになります。

8 表示窓

A TV : Aモードでテレビ放送を受信している。

A ADD : Aモードで独立放送を受信している。

B : Bモード (テレビ放送) を受信している。

TV OUT : Aモードでテレビ放送を選んでいる。

ADD OUT : Aモードで独立放送を選んでいる。

DIGITAL : デジタル音声出力端子 (同軸および光) からデジタル信号が出力されている。

STEREO : ステレオ音声が発送されている。

MAIN SUB : 主または副音声を選んでいる。

VIDEO : ライン入力端子につないだ放送を見ている。

9 TV/ADDボタン

Aモードでテレビ音声と独立音声両方送られてくるとき、どちらかを選びます。

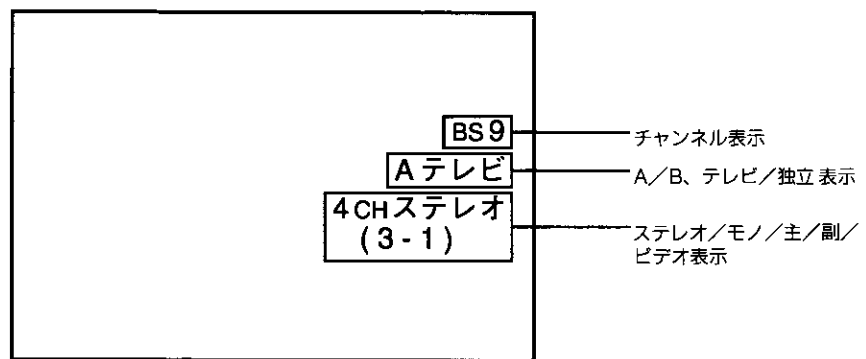
10 DUALボタン

音声多重放送が行われているときに主/副の音声を選びます。

11 ダイレクトチャンネルボタン

見たいチャンネルを選びます。

画面表示

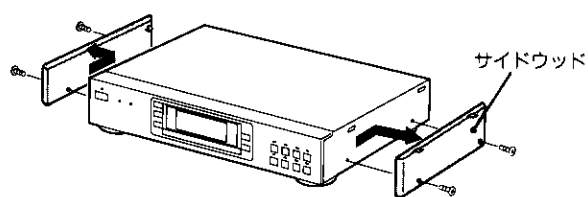


(上の例は選んだ番組が、BS9チャンネル、Aモードのテレビ放送で、4chステレオ (3-1方式) の場合)

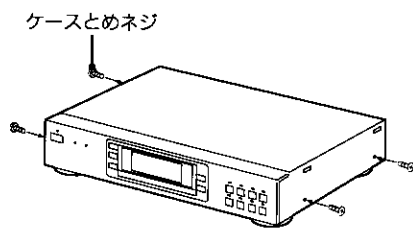
サイドウッドをはずして使用するには

サイドウッドをはずして使用する際には、サイドウッドをとめていたネジの代わりに、付属のケースとめネジを使用してください。長いネジを使用すると、本機の内部をいためます。

1 ネジを4本はずし、サイドウッドを少し後ろにずらしてからはずす。

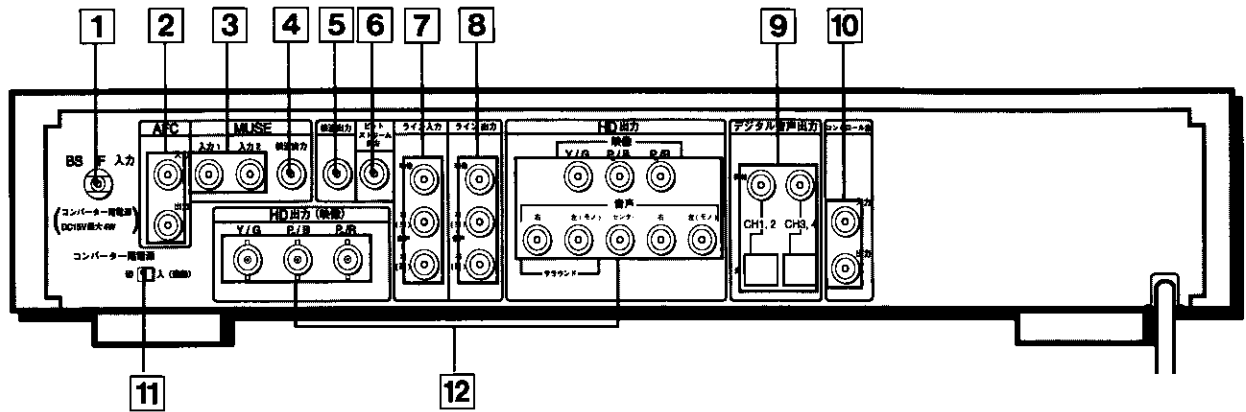


2 付属のケースとめネジをとめる。



各部の名称と働き(つづき)

裏面



1 BS IF入力端子

BSコンバーターからのケーブルをつなぎます。

ご注意

- この端子からBSコンバーター用の電源 (DC15V) が供給されますのでBSコンバーター以外では絶対につながらないでください。
- ケーブルをつなぐときは、工具を使わずに手でしっかりと締めてください。工具を使うと、端子をいためることがあります。

2 AFC入力/出力端子 (ピンジャック)

入力: スクランプルのかかったハイビジョン放送など将来の新放送システムに対応するために用意されています。

出力: MUSE対応の外部チューナーなど将来の新放送システムに対応するために用意されています。

3 MUSE入力端子 (ピンジャック)

MUSE信号を出力するビデオディスクプレーヤー、将来的に考えられているMUSE対応の外部チューナー、スクランブルのかかったハイビジョン放送などのために用意されています。

4 MUSE出力端子 (ピンジャック)

スクランブルのかかったハイビジョン放送またはMUSEビデオデッキのために用意されています。

5 検波出力端子 (ピンジャック)

スクランブル放送用BSデコーダーの検波入力端子とつなぎます。

6 ビットストリーム出力端子 (ピンジャック)

スクランブル放送用BSデコーダーのビットストリーム入力端子とつなぎます。また将来の新放送システムにも対応しています。MUSE信号には対応していません。

7 ライン入力端子 (ピンジャック)

スクランブル放送用BSデコーダーのライン出力とつなぎます。またレーザーディスクなどのビデオ機器をつなぐこともできます。

8 ライン出力端子 (ピンジャック)

通常のBS放送を見る、または録画するために、テレビ、モニター、ビデオデッキなどの映像/音声入力端子とつなぎます。録画するときは、本機の電源を入れたままにしてください。ハイビジョン放送は出力されません。

9 デジタル音声出力端子

同軸 (ピンジャック)、光 (角型コネクター)

CH1, 2: 衛星放送とハイビジョン放送の1、2チャンネルの音声デジタルで出力されます。DAT (デジタルオーディオテープレコーダー)、デジタル入力アンプなどにつなぎます。

CH3, 4: ハイビジョン放送の3、4チャンネルの音声デジタルで出力されます。DAT、デジタル入力アンプなどにつなぎます。

10 コントロールS 入力/出力端子 (ミニジャック)

コントロールSは、ソニー独自のコントロールシステムです。他の機器のコントロールS入力端子とつなぎます。ハイビジョン放送は出力されません。(⑩、⑪ページ。)

出力: MUSE対応の外部チューナーなど将来の新放送システムに対応するために用意されています。

11 コンバーター用電源スイッチ

BSコンバーターに供給する電源 (DC15V) を入/切するスイッチです。お買い上げ時は「切」になっていますが、BSコンバーターからケーブルをBS IF入力端子に直接つなぐ場合は「入 (運動)」にしてください。本機に電源が入るとコンバーターにも電源が供給されます。マニションで共聴システムをお使いのときは、「切」のままにする場合があります。

12 HD出力

映像 (ピンジャックまたはBNCコネクター)

ハイビジョン放送の映像信号を出力する端子です。MUSE方式で帯域圧縮された信号 (MUSE信号) が、もとのハイビジョン信号にデコードされ出力されます。

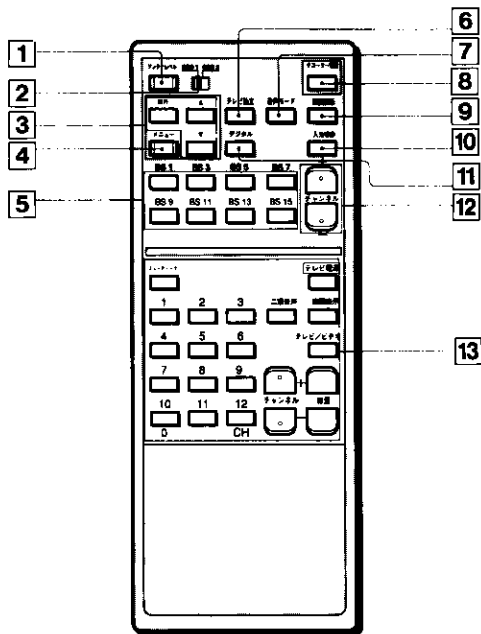
ピンジャックまたはBNCコネクターをもつハイビジョン対応のテレビ/モニターとつなぎます。ご使用の機器によってどちらかをお使いください。

付属のBNC-マルチケーブルを使えば、マルチコネクターをもつハイビジョン対応の機器 (ソニークW-3600HD、KWP-5500HDなど) とつなぐことができます。出力形式はYPbPrまたはGBR形式 (S on G) を選んでお使いいただけます。(⑩ページ。)

音声 (ピンジャック)

ハイビジョン放送の音声出力する端子です。ハイビジョン対応のテレビ/モニター、オーディオ機器などにつなぎます。5入力の機器と接続すると3-1方式の4チャンネルステレオ放送をお楽しみいただけます。

リモートコマンダーRM-J134



1 アンテナレベルボタン

BSアンテナの方向を調節するときに使います。また、本機に入力している信号のレベルを知ることでもできます。

2 DBS1/DBS2切り換えスイッチ

DBS2にして使ってください。DBS1にすると本機以外のBS機器を操作できます。

3 実行ボタン、ボタン

メニュー画面で操作するときに使います。

4 メニューボタン

メニュー画面を出して操作するとき、およびメニュー画面の操作を終えるときに押します。

5 ダイレクトチャンネルボタン

見たいチャンネルを選びます。チャンネル設定されていないチャンネルも選ぶことができます。

6 テレビ/独立音声切り換えボタン

Aモードでテレビ音声と独立音声両方送られてくるときどちらかを選びます。

7 音声モードボタン

ステレオ放送および多重音声放送が行なわれているときにステレオの種類や主音声、副音声を選ぶボタンです。

8 デコーダー電源ボタン

本体の電源スイッチがONのとき、このボタンの入/切で本体動作状態もしくはスタンバイ状態にします。

9 画面表示ボタン

押すとチャンネル・音声の表示が出たままになります。もう一度押すと消えます。


10 入力切換ボタン

デコーダーのBS IF入力端子からの信号と、外部MUSE入力端子からの信号を切り換えるボタンです。


11 デジタルボタン

デジタル音声出力端子の信号を入/切します。

12 チャンネル+/-ボタン

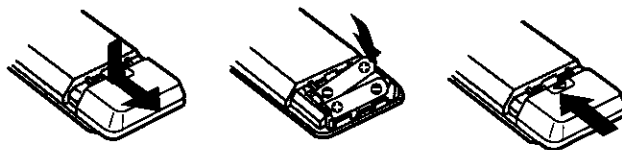
押すとあらかじめ設定されたチャンネルが順に選べます。
(チャンネル設定→ページ)

13 テレビ用ボタン

マークのついた当社製テレビチューナーまたはカラーテレビの操作ができます。リモコンをテレビチューナーやテレビの受光部に向けて使います。

本機をお使いになる前に各部の名称と働き

電池の入れかた



単3形2本



ちょっと一瞥

電池の交換時期は

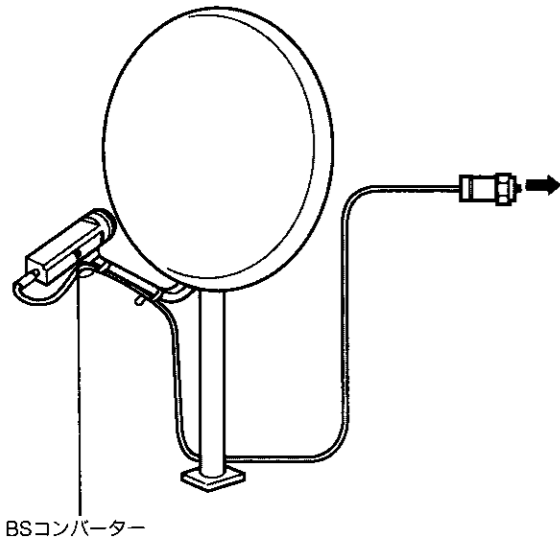
ふつうの使いかたで約6か月もちます。電池が消耗するとボタンを押しても操作できないことがあります。

ご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- ・との向きを正しく入れてください。
- ・新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・乾電池は充電できません。
- ・長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出しておいてください。
- ・液もれが起こったときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。

BSアンテナをつなぐ

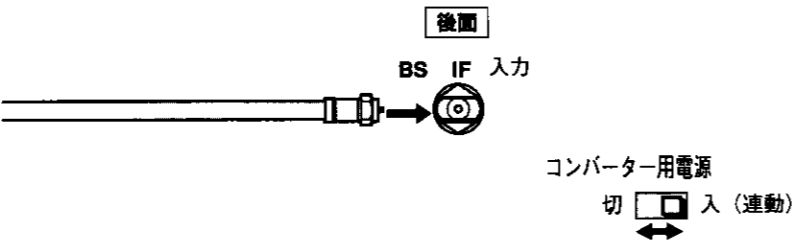


BSコンバーター

コンバーター用電源についてのご注意

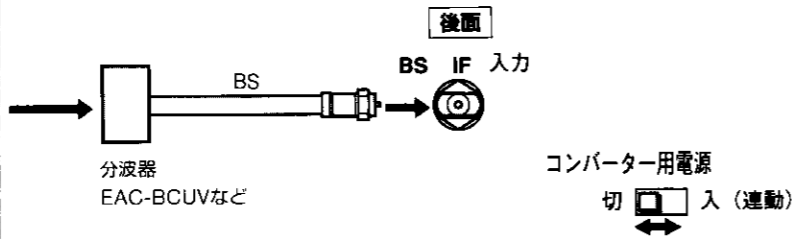
・BS IF入力端子は、BSコンバーター用の電源(DC15V)が供給されています。BSコンバーター以外は絶対につながないでください。また、BSコンバーターを直接つないだ場合は、テレビ後面のコンバーター用電源スイッチを「入」側にしてください。
詳しくは⑩ページをご覧ください。

直接BSアンテナをつなぐ場合



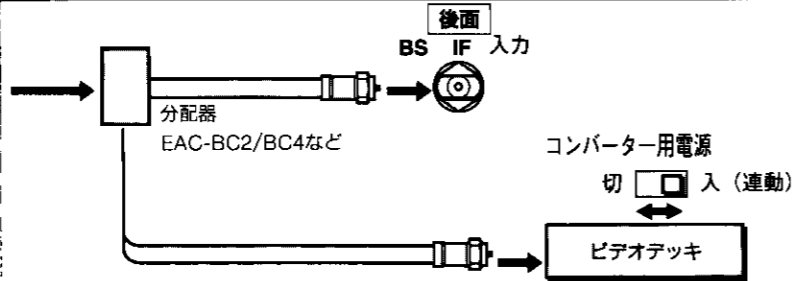
- コンバーター用電源スイッチを「入(連動)」側にする。(⑩ページ)
- 適切な大きさのアンテナを使う。
- アンテナの前に障害物を置かない。
- アンテナレベルを調整する。(⑩ページ)

マンションなどの共聴システムの場合



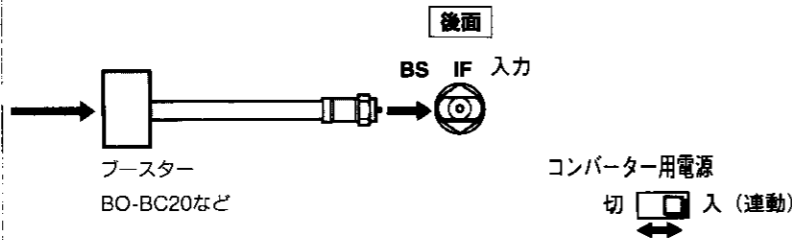
- コンバーター用電源スイッチを「切」側にする。(⑩ページ)
- VHF/UHFとBSが1本のケーブルの場合、分波器を使う。

分配器を使ってBSアンテナをつなぐ場合



- 各機器のコンバーター用電源スイッチを「入(連動)」側にする。(⑩ページ)
- 分配器(サテライト分配器)についてのご注意
BS分配器は次のような2種類があります。
④どの端子からもコンバーターに電源が供給できるタイプ
⑤特定の端子からのみコンバーターに電源を供給するタイプ
タイプ⑤の分配器をお使いになると、テレビをつけないとBS放送の録画ができないなどの不都合が生じる場合があります。
必ずタイプ④の分配器(ソニーEAC-BC2またはEAC-BC4など)をお使いください。

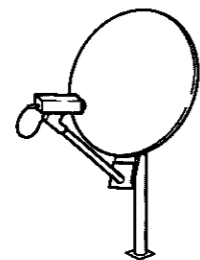
ブースターを使ってアンテナをつなぐ場合



- コンバーター用電源スイッチを「入(連動)」側にする。(⑩ページ)
(BSブースターを使用してコンバーター用電源を供給する場合は「切」側にする。)
- ブースターは、正しくつなぐ。
- ケーブルの心線は、コネクタに正しく入れる。
- ブースターの電源コードは、必ず家庭用コンセントにつなぐ。

BS(衛星放送)を受信するために必要な別売り商品

BSアンテナとコンバーターのセット



SAN-505
SAN-703

ハイビジョン放送を美しくごらんいただくため、SAN-703以上の大型パラボラアンテナの設置をお勧めします。

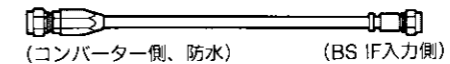
BSアンテナとコンバーター
(組み合わせてお使いください)
BSアンテナ SAN-1201
コンバーター SAC-21
アンテナ取り付け金具
ANJ-K1(壁面タイプ)
ANJ-B1(ペランダタイプ)
ANJ-Y1(屋根馬タイプ)

サテライト分配器
EAC-BC2
EAC-BC4

サテライト/UV混合分波器
EAC-BCUV

サテライトラインブースター
BO-BC20

サテライト用同軸ケーブル
SAK-C30(30m)
SAK-C20(20m)
SAK-C10(10m)



(コンバーター側、防水) (BS IF入力側)

BSを受信するときのご注意

独立音声とは

Aモード放送のとき、テレビ画面の音声以外にもうひとつの音声が送られています。これが独立音声です。テレビ画面とは無関係の番組もありますのでご注意ください。
Bモード放送のときは、独立音声を選ぶことは、できません。

BSの受信状態について

次のようなときは、BSを受信できなかつたり、受信状態が悪かつたりしますが、故障ではありません。

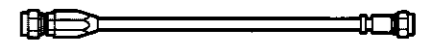
- ・雷、豪雨、降雨、強風などの悪天候のとき
- ・アンテナに雪が付着しているとき
- ・強風などで、アンテナの向きが変わったとき
- ・春分、秋分、日食など、太陽と地球と放送衛星が並んだとき
放送衛星の太陽電池が陰になるためです。

その他

ケーブル、アンテナコネクタは、BS専用のものを使ってください。
VHF/UHFのアンテナコネクタは、BS用には使えません。

BS同軸ケーブル

(コンバーター側が防水仕様のもの)



VHF/UHFの
アンテナコネクタ



アンテナの方向／角度の調節

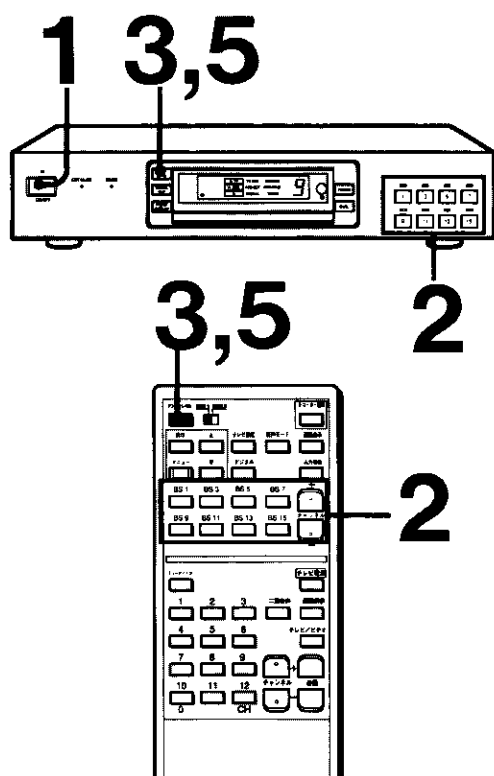
準備

まず、アンテナの調節をする前に次のことをご確認ください。

- 1 BSアンテナの設置をしておく。
- 2 本機とテレビ／モニターを正しく接続する。(①～④ページ)
ハイビジョン放送をしているチャンネルでアンテナ調整するとき
HD出力映像端子をハイビジョン用のテレビ／モニターにつなぐ。

操作

リモコンとデコーダー本体のどちらからでも操作できます。



BS放送 (NTSC) をしているチャンネルでアンテナ調整するとき
BS／ライン出力端子をテレビ／モニターのビデオ入力につなぐ。

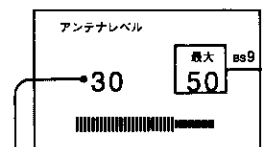
- 3 テレビ／モニター、アンプ (接続しているときは) の音量は最小に
しておいてから、電源を入れる。

1 電源を入れる。

2 放送されているチャンネルを選ぶ。 (1992年10月現在、BS5、7、9、11チャンネル)

3 アンテナレベルボタンを押す。 アンテナレベル表示が画面に出ます。

4 アンテナレベルの数 値が最大になるよう にアンテナを動かす。



現在の入力レベル
右の値に近づくよ
うにアンテナを調
節する。

今まで入ってきた電波の
中で最大の入力レベル
これを目安にしてアンテ
ナの方向を決める。

調節のコツ

最初に上下方向 (仰角) を決め、次にゆっくり左右に回して方位角を決め最大値を探るようにします。

詳しくはアンテナの取扱説明書をご覧ください。

5 アンテナレベルボタンを押す。 アンテナレベル表示が消えます。

ご注意

アンテナ入力レベルの数値は

あくまでもアンテナ設置のために目安とするものであり、画質や音質のレベルとは関係ありません。また、受信C/N比 (受信信号電力対雑音電力比) を表わすものでもありません。

数値の目安は

受信C/N比が14dBで、BSコンバーターと本機の間を30mのBSケーブルで直接つないだときには、通常15～35が表示されます。

■BS放送でアンテナ調整をしているときは

アンテナレベル表示は、信号を受信してから初めて画面に出ます。

■アンテナレベル表示中にチャンネルボタンを押すと

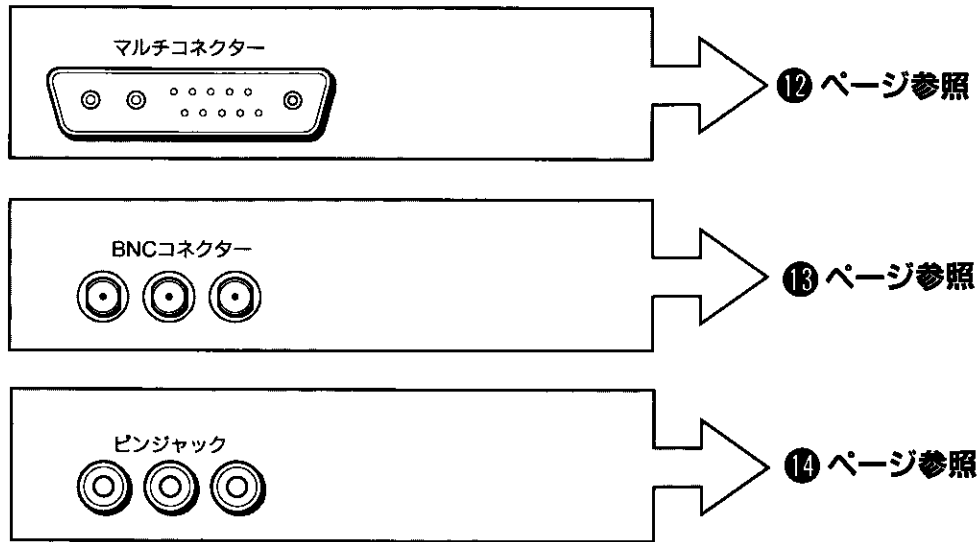
そのときのチャンネルの入力レベルが表示されます。表示の数値は各々のチャンネルで違います。またBSコンバーターの性能によっても差が生じます。

次のようなものに数値は影響されます

- ・雨、雪、温度、アンテナケーブルの長さ。
- ・時間によっても値は上がったり下がったりします。
- ・BSコンバーターと本機の間に分配器、直列ユニットなどを使用したことによる本機への入力レベル不足。(このようなときはBS IFブースターを使用してください。)

テレビ／モニターなどにつなぐ

お手持ちのハイビジョン対応機器の端子にしたがって接続してください。



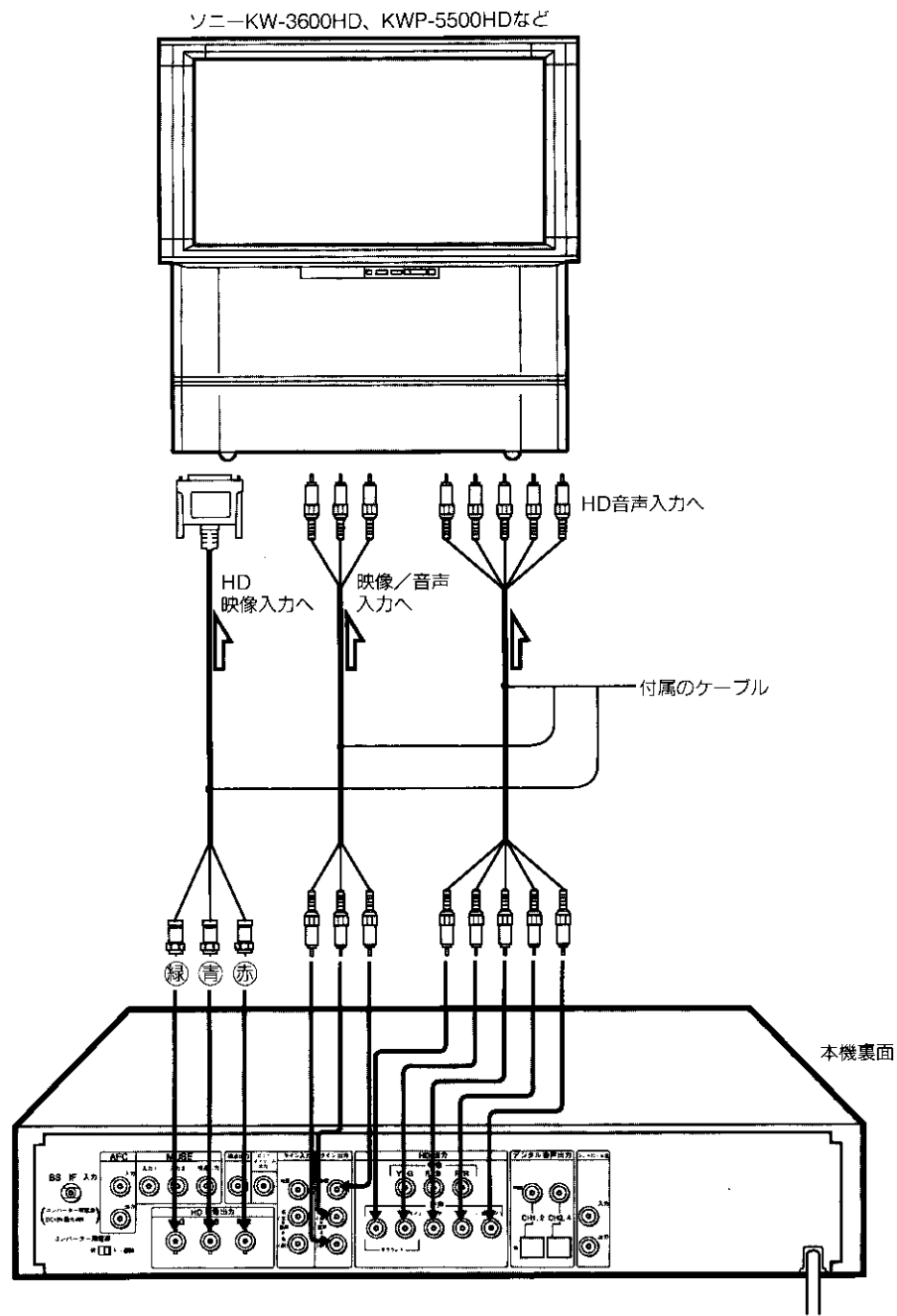
接続するときは

- プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因になります。
- プラグを抜くときは、コードを引っ張らずに、プラグを持って抜き取ってください。
- 複数の機器をつないだら、お互いの干渉を防ぐために、お使いにならない機器の電源は切っておいてください。
- テレビ／モニターの画像や音に雑音が入るときは、つないだ機器とお互いを充分離してください。
- 機器によっては接続が異なる場合がありますので、接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続

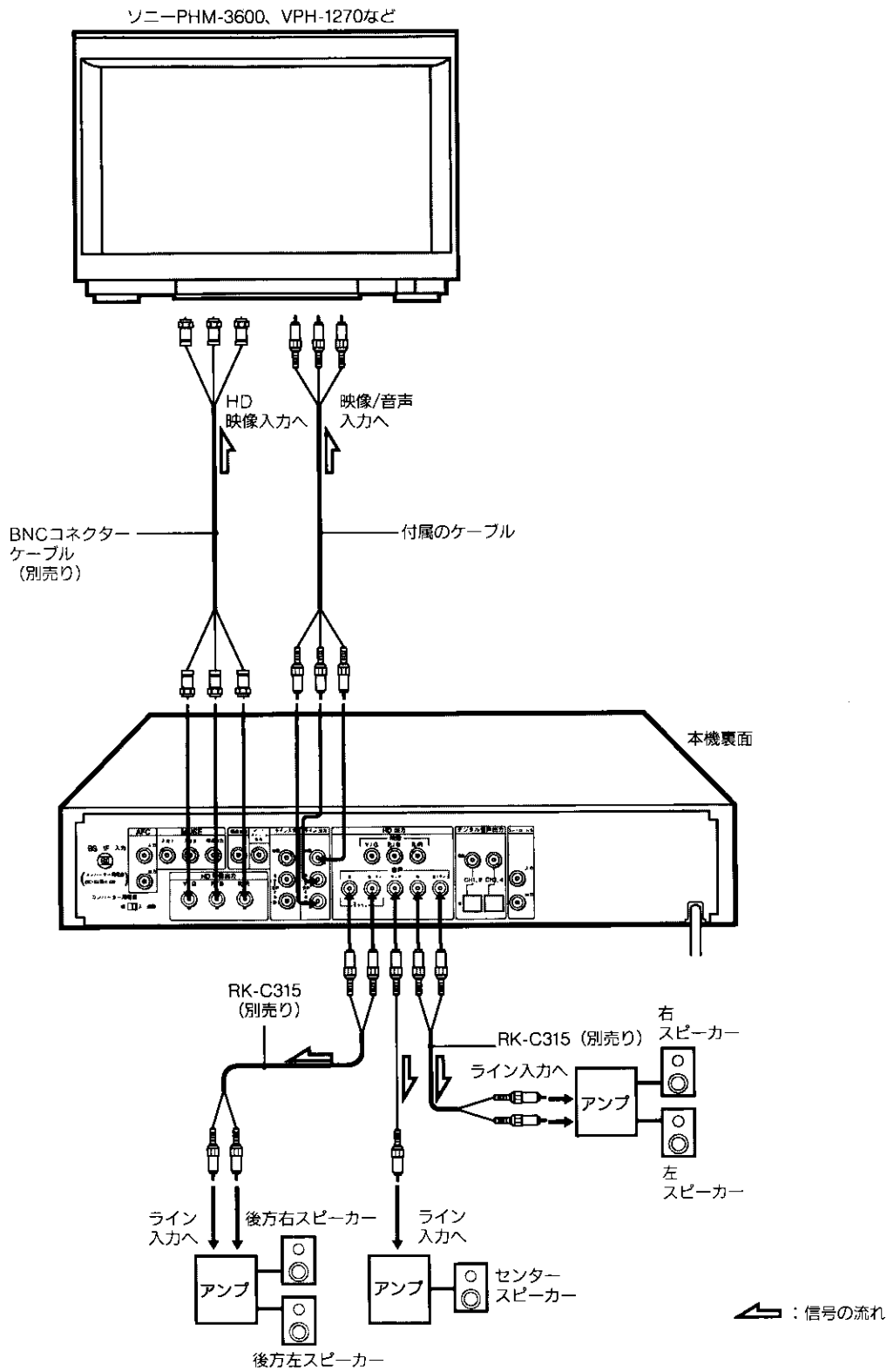
テレビ／モニターなどをつなぐ
アンテナの方向／角度の調節

マルチコネクターを持つハイビジョン対応テレビにつなぐ



▲ : 信号の流れ

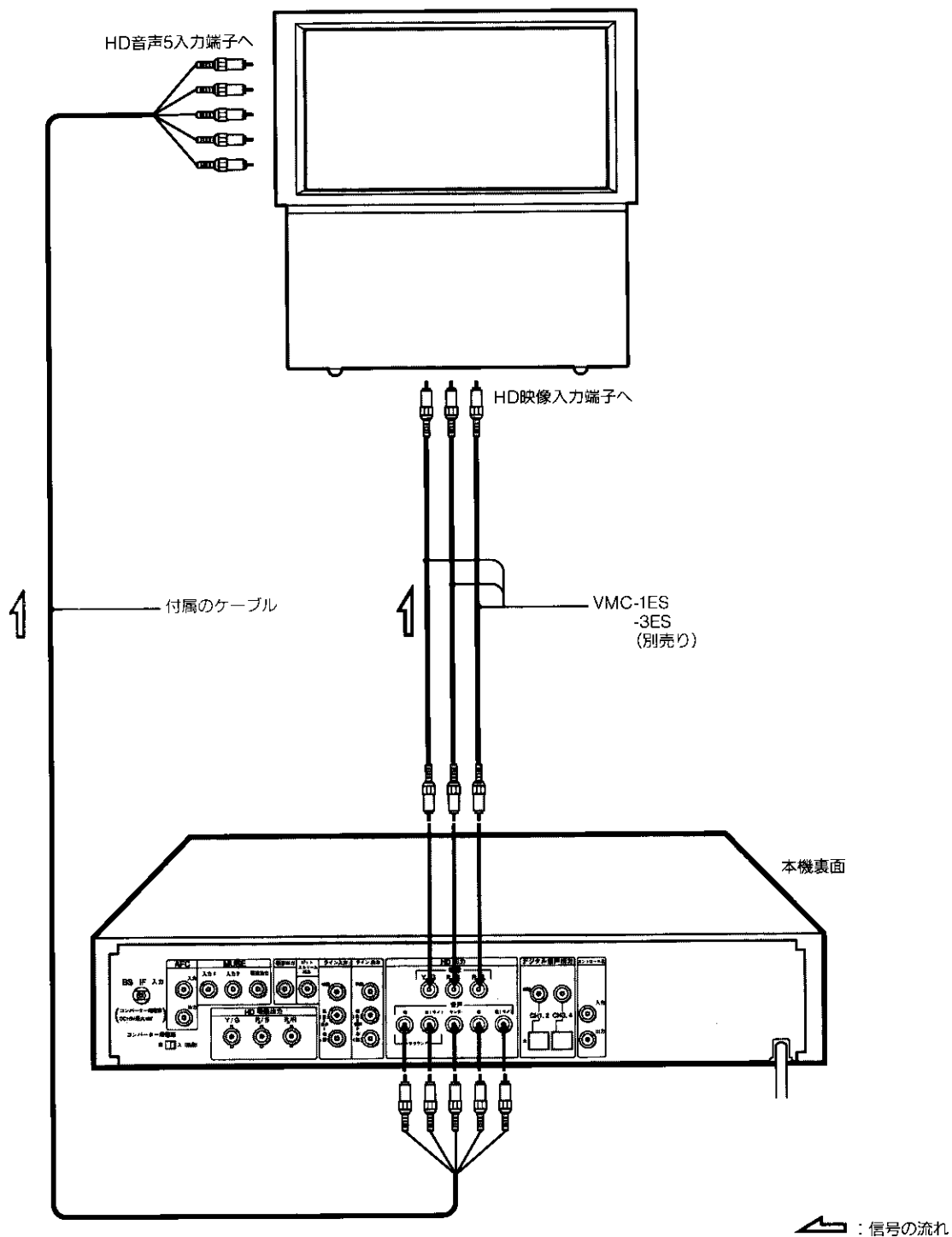
BNCコネクターを持つハイビジョン対応モニターとつなく



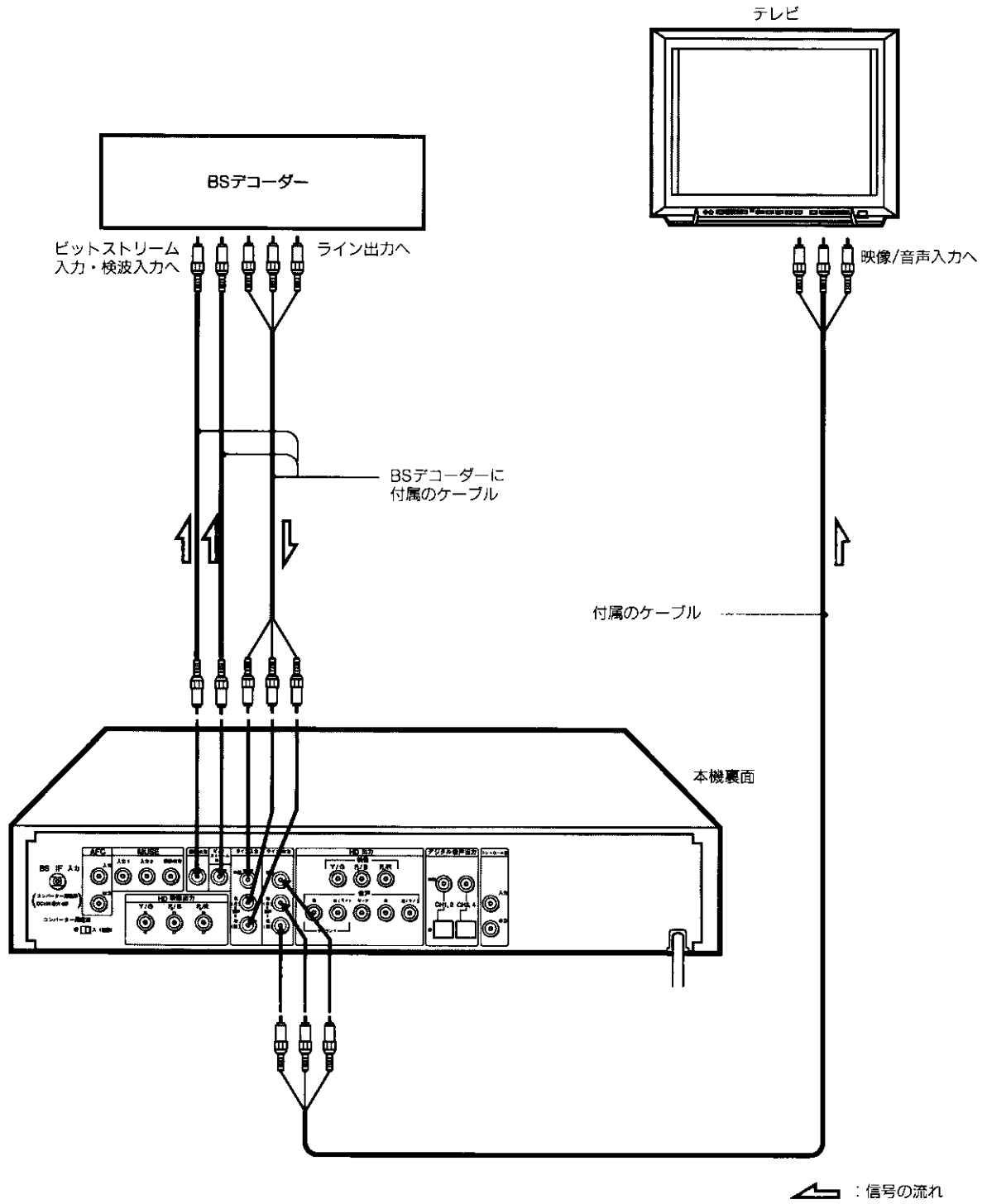
接続
テレビ/モニターなどにつなぐ

テレビ/モニターなどにつなぐ(つづき)

ピンジャックを持つハイビジョン対応テレビ/モニターにつなぐ



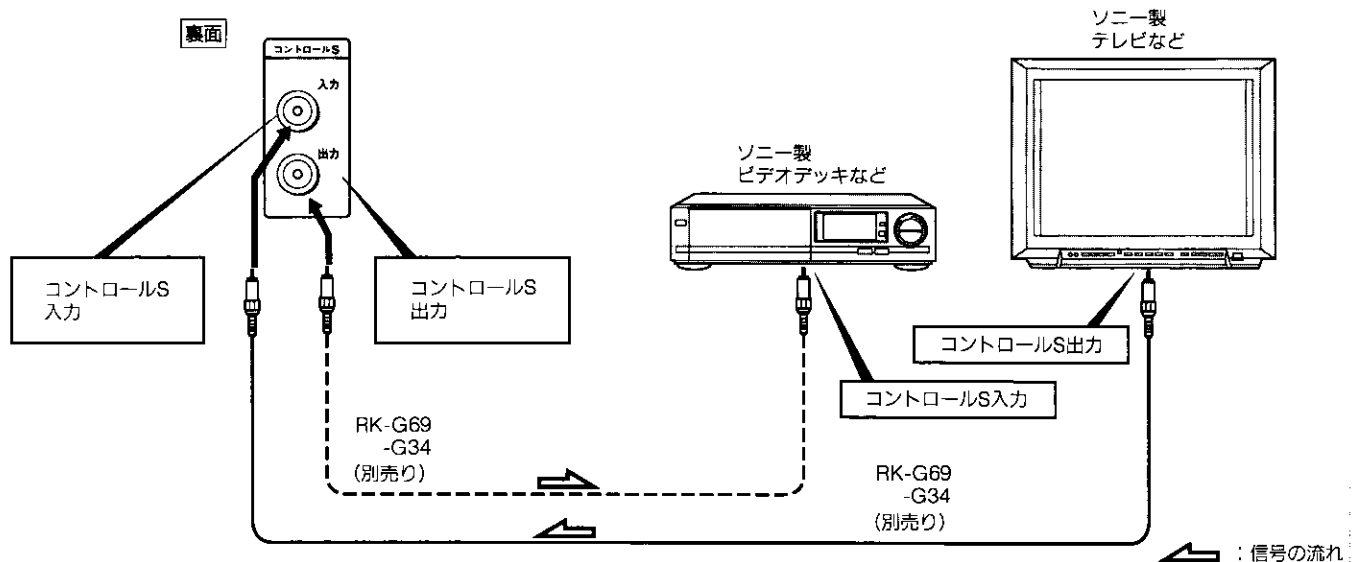
スクランブル放送用BSデコーダーとつなぐ



接続 テレビ/モニターなどにつなぐ

テレビ/モニターなどにつなぐ(つづき)

コントロールS端子の使いかた



コントロールSは、ソニー独自のコントロールシステムです。本機をBSチューナーとして使うときにコントロールS端子の付いたビデオデッキやビデオディスクプレーヤーなどの機器と組み合わせて使います。

- ・コントロールS入力端子は、他の機器のコントロールS出力端子とつなぐことにより、他の機器から本機をリモコン操作することができます。
- ・コントロールS出力端子は、他の機器のコントロールS入力端子とつなぐことにより、本機にリモコンを向けて他の機器を操作することができます。

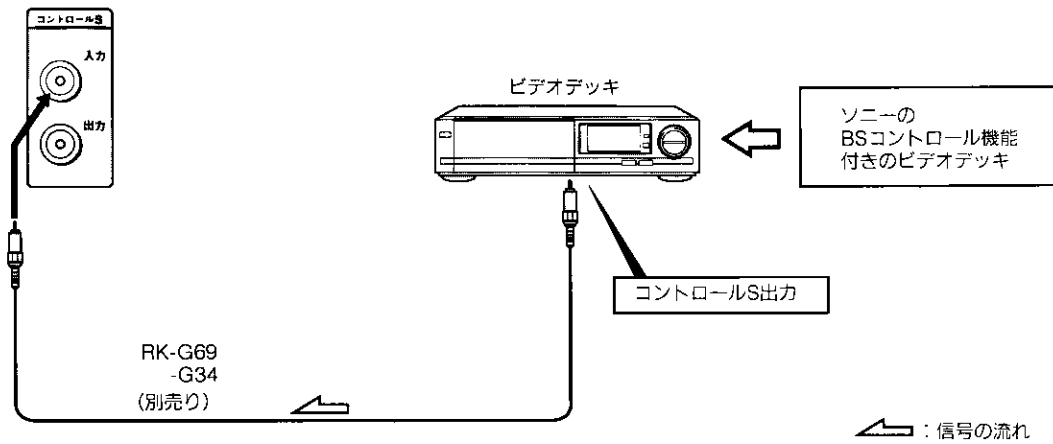
・組み合わせる機器を離して置くこともできます。

・コントロールS入力端子が接続されていても、コントロール信号の入力がなければ、リモコン動作を受け付けません。

ご注意

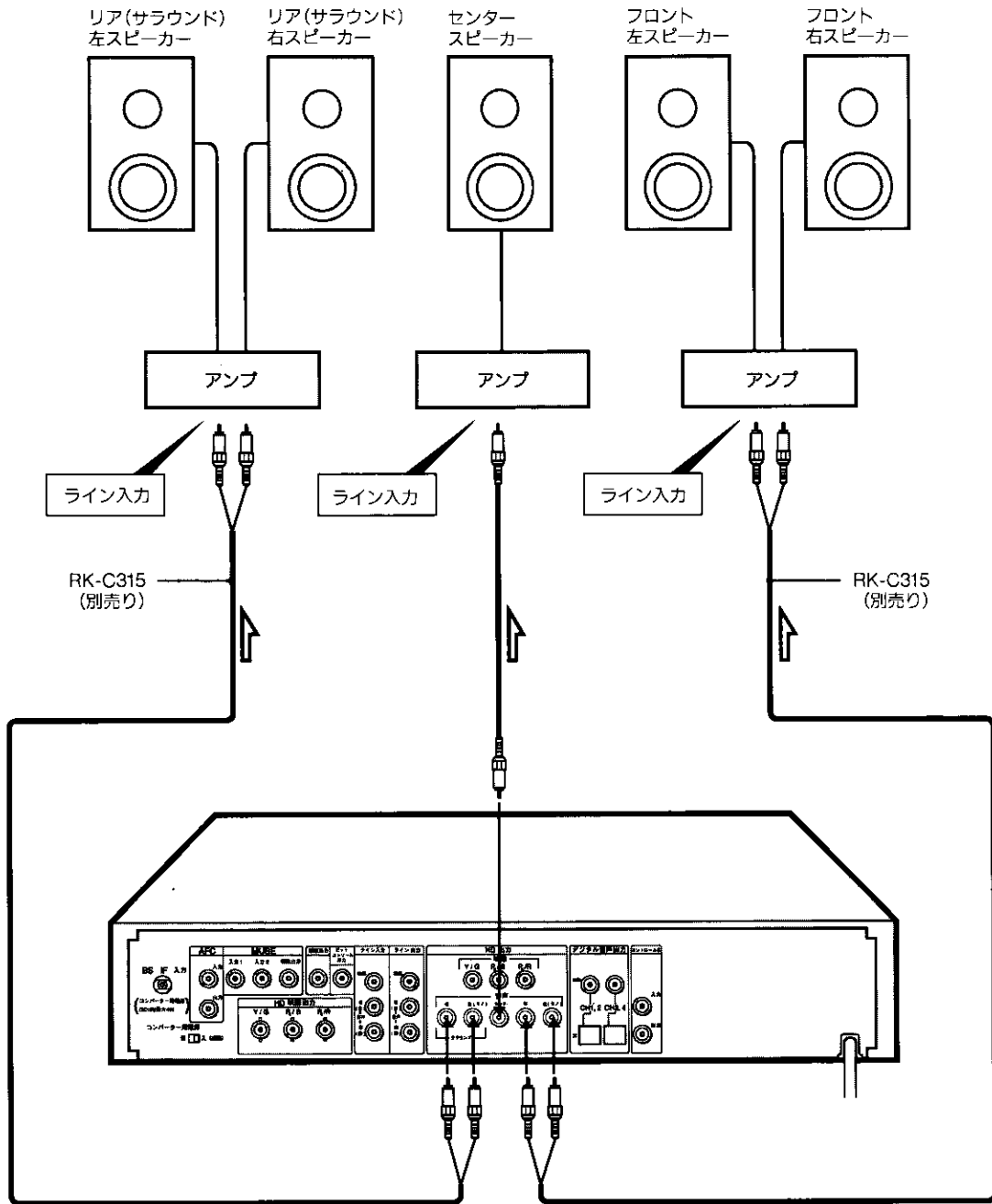
コントロールS端子につないだ機器が手元のリモコンで動かなくなることもあります。この場合は、ケーブル接続をやめてください。

BSコントロール機能付きのソニー製ビデオデッキとつなぐ



BSコントロール機能を使うと、ビデオデッキ側でBSの予約ができます。
詳しくは、ビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

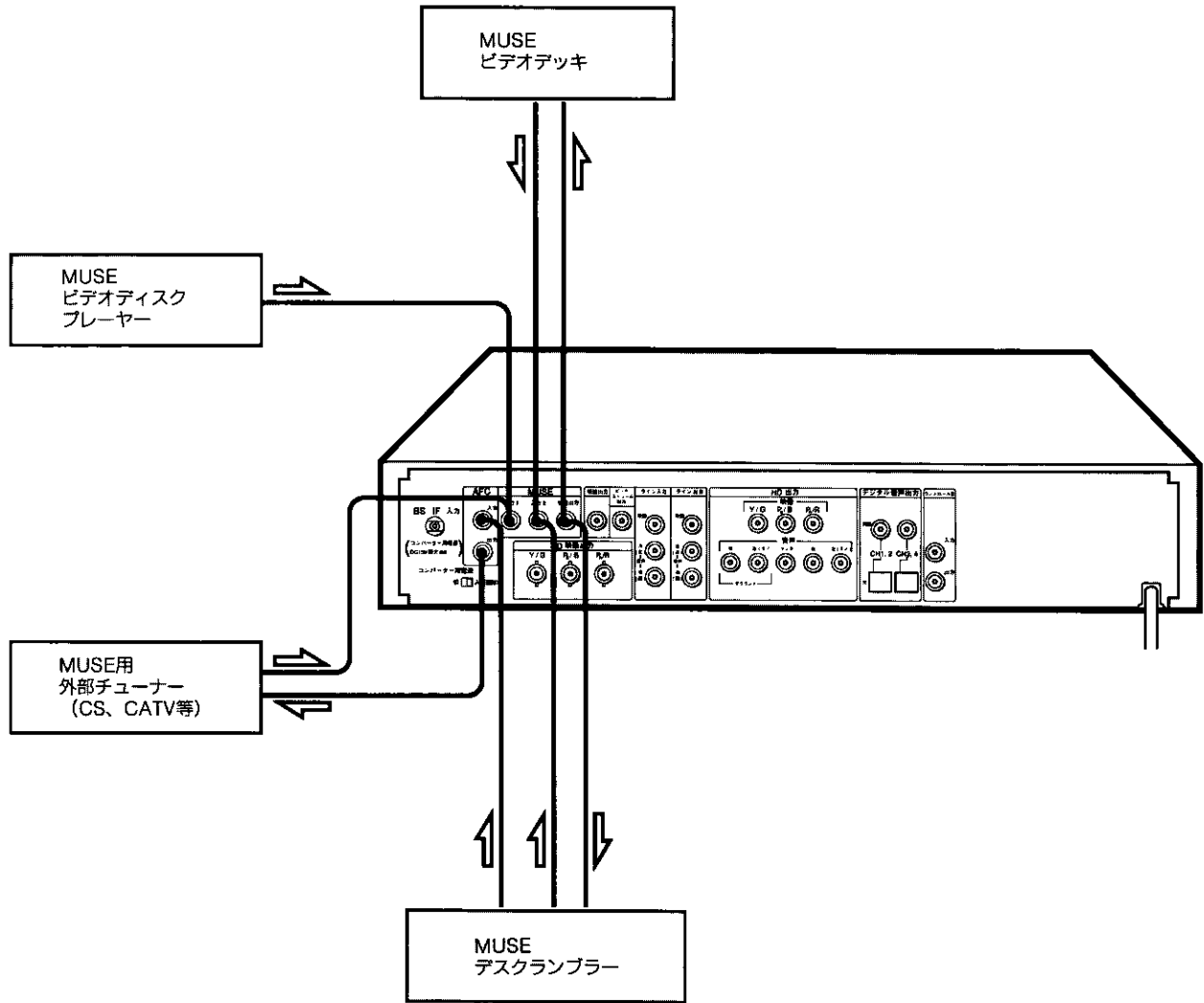
HD出力/音声5端子を使って



➤ : 信号の流れ

MUSE機器をつなぐ

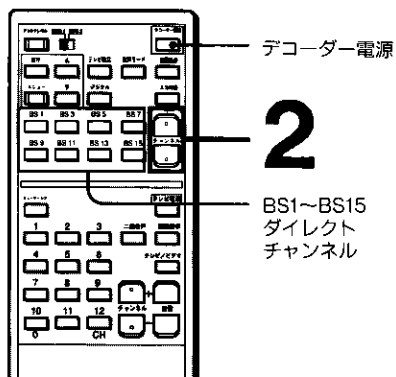
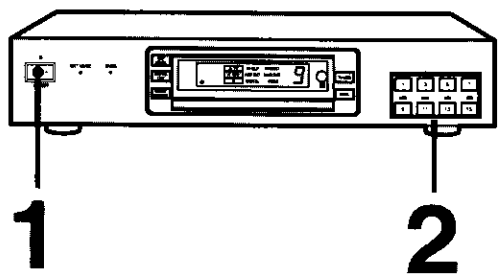
接続のしかた



↔ : 信号の流れ

MUSEデスクランブラー、ハイビジョンビデオディスクプレーヤー、ハイビジョンビデオデッキなどのハイビジョン関連機器は、将来的に発売が予定されているものですが、1992年10月現在、商品化されているのは業務用だけです。

はじめにテレビ/モニターの電源を入れ、本機からの画像が見られるようテレビ/モニターの入力切り換えを合わせてください。



1 電源を入れる。

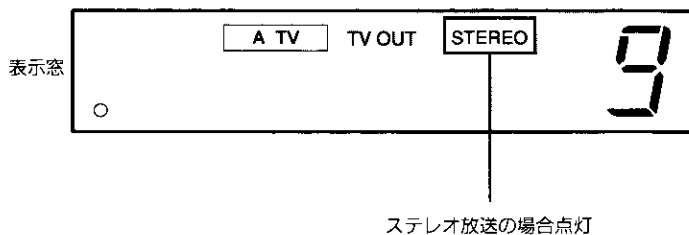
本体に電源が入れば、リモコンのデコーダー電源ボタンで入/切（スタンバイ）が操作できます。

2 チャンネルを選ぶ。

リモコン（または本体）のダイレクトチャンネルボタンで、直接見たいチャンネルが選べます。

1992年10月現在、ハイビジョン放送が行われているのは、BS9チャンネルのみです。

放送音声モード、受信チャンネルが表示窓に点灯します。



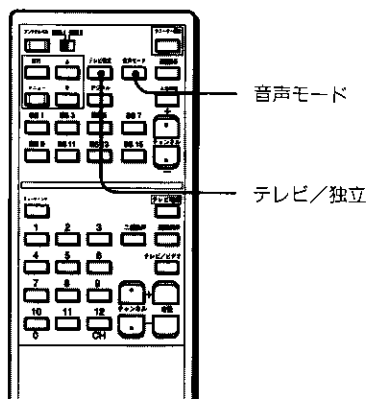
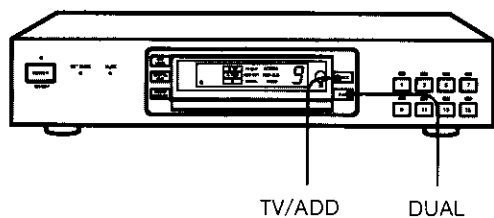
接続

操作

ハイビジョン放送、従来のBS放送を見るには
MUSE機器をつなぐ

ハイビジョン放送、従来のBS放送を見るには(つづき)

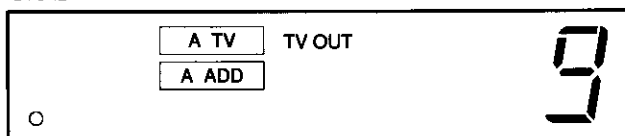
好みの音声を選ぶには



TV/ADD (テレビ/独立) を選ぶ

- 放送されている音声自体表示窓に点灯します。
- Aモードでテレビ音声と独立音声が発送されている場合TV/ADD (リモコンではテレビ/独立) ボタンでどちらかを選びます。

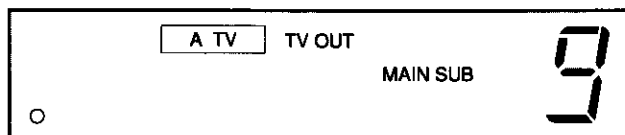
表示窓



二重音声の主/副を選ぶ

主 (MAIN) 副 (SUB) をDUAL (リモコンでは音声モード) ボタンで選びます。

表示窓



テレビ/モニターの画面表示

例 選んだ番組がハイビジョン放送 (BS9チャンネル) のAモードのステレオの場合

画面表示は、電源を入れた後約30秒間、チャンネルや音声モード切り換え後は約3秒間点灯し、その後自動的に消えます。

BS9
Aテレビ
4CHステレオ
(3-1)

ちよつと一瞥

画面表示を出したままにするには

リモコンの画面表示ボタンを押してください。もう一度押すと元の状態に戻ります。

NTSCのテレビ/モニターとハイビジョン対応モニターをつないでいるとき

画面表示がNTSC側とハイビジョン側両方に出力されることはありません。本体で検知して映像信号のある方に表示が出ます。両方に信号がない場合は、NTSC側に表示が出ます。ただしメニュー操作中は信号の有無にかかわらず、継続して表示します。

音声について

本機の音声出力端子

本機の音声出力端子は次のようになっています。

- ハイビジョン放送の音声 (1) HD出力/音声5端子
(2) デジタル音声出力端子CH1～4
- BS放送の音声 ライン出力端子
デジタル音声出力端子CH1、2

音声モードとは?

・音声の伝送方式のことです。AモードとBモードの2種類あり、番組の内容によって使い分けられ、本機で自動的に切り換わります。

・衛星放送の音声はPCM (Pulse Code Modulation) ^{パルス コード モジュレーション} 変調のデジタル音声であるため、非常に高音質です。

AモードとBモードについて

モード	音 質	チャンネル数
A	FM放送とほぼ同等	4：テレビ音声L・R (現在放送されているテレビ番組の音声) 独立音声L・R (テレビ番組とは無関係な音声)
B	CD (コンパクトディスク) とほぼ同等	2：テレビ音声L・R

ハイビジョン放送、従来のBS放送を見るには (つづき)

ハイビジョン放送における各音声モードによる4チャンネルの内容とHD出力/音声5端子との関係

- 各音声モードでステレオ信号やモノラル信号がどのように送られるかによって4チャンネルの内容が以下の図ようになります。図には代表例だけがのせてあります。
- 4チャンネルの内容は5つのスピーカー用に組みかえられ、HD出力/音声5端子から出力されます。その方法についても、あわせて示してあります。
- MUSE信号を外部入力した際にも適用されます。

■Aモードの場合 C…センター、S…サラウンド、L_F…前方ステレオL、R_F…前方ステレオR、L_B…後方ステレオL、R_B…後方ステレオR

	音声モード(Aモード)		デジタル音声出力端子 各チャンネルの番号			
	テレビ音声 (A TV)	独立音声 (A ADD)	CH 1	CH 2	CH 3	CH 4
ハイビジョン放送	ステレオ1系統	なし	L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	なし	なし
	モノラル1系統	なし	主 (テレビ音声)	なし	なし	なし
	ステレオ1系統	ステレオ1系統	L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	L (独立音声)	R (独立音声)
	モノラル2系統	ステレオ1系統	主 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)	L (独立音声)	R (独立音声)
	モノラル1系統	ステレオ1系統	主 (テレビ音声)	なし	L (独立音声)	R (独立音声)
	なし	ステレオ1系統	なし	なし	L (独立音声)	R (独立音声)
	4チャンネル (3-1)方式 ステレオ	なし	L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	C (テレビ音声)	S (テレビ音声)
	4チャンネル (2-2)方式 ステレオ	なし	L _F (テレビ音声)	R _F (テレビ音声)	L _B (テレビ音声)	R _B (テレビ音声)

HD出力/音声5端子の信号				
左(モノ)	右	センター	サラウンド	
			左(モノ)	右
L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	主 (テレビ音声)	なし	なし	なし
L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	なし	なし	なし
L (独立音声)	R (独立音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	主 (テレビ音声)	なし	なし	なし
副 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	副 (テレビ音声)	なし	なし	なし
L (独立音声)	R (独立音声)	なし	なし	なし
主 (テレビ音声)	主 (テレビ音声)	なし	なし	なし
L (独立音声)	R (独立音声)	なし	なし	なし
L (独立音声)	R (独立音声)	なし	なし	なし
L (テレビ音声)	R (テレビ音声)	C (テレビ音声)	S (テレビ音声)	S (テレビ音声)
L _F (テレビ音声)	R _F (テレビ音声)	なし	L _B (テレビ音声)	R _B (テレビ音声)

■Bモードの場合

ハイビジョン放送	音声モード(Bモード) (独立音声は、なし) テレビ音声	デジタル音声出力端子 各チャンネルの信号			
		CH1	CH2	CH3	CH4
	ステレオ1系統	L	R	なし	なし
	モノラル2系統	主	副	なし	なし
	モノラル1系統	主	なし	なし	なし

HD出力/音声 5端子の信号				
左(モノ)	右	センター	サラウンド	
			左(モノ)	右
L	R	なし	なし	なし
主	主	なし	なし	なし
副	副	なし	なし	なし
主	副	なし	なし	なし
主	主	なし	なし	なし

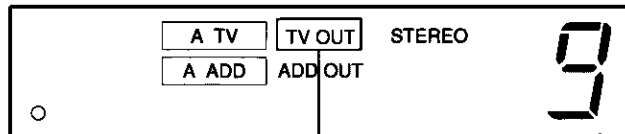
上記の他、ハイビジョンの場合、多種類の音声形態が考えられます。
本機ではそれら全てに対応しています。

操作

ハイビジョン放送、従来のBS放送を見るには

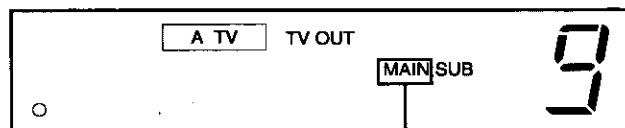
表示窓の表示

例 Aモードのテレビ音声、独立音声各々がステレオの場合



TV/ADDボタンで 表示を選択します。

例 Aモードのテレビ音声がモノラル2系統の場合



DUALボタンで 表示を選択します。

■Bモードの場合

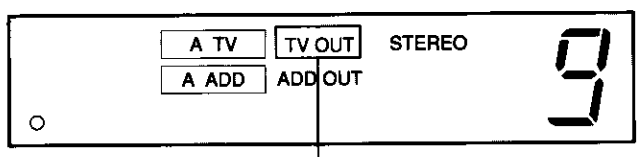
ハイビジョン放送	音声モード(Bモード) (独立音声は、なし) テレビ音声	デジタル音声出力端子 各チャンネルの信号			
		CH 1	CH 2	CH 3	CH 4
	ステレオ1系統	L	R	なし	なし
	モノラル2系統	主	副	なし	なし
	モノラル1系統	主	なし	なし	なし

HD出力/音声 5端子の信号				
左(モノ)	右	センター	サラウンド	
			左(モノ)	右
L	R	なし	なし	なし
主	主	なし	なし	なし
副	副	なし	なし	なし
主	副	なし	なし	なし
主	主	なし	なし	なし

上記の他、ハイビジョンの場合、多種類の音声形態が考えられます。
本機ではそれら全てに対応しています。

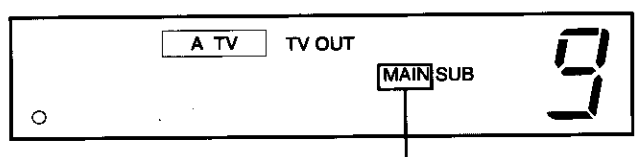
表示窓の表示

例 Aモードのテレビ音声、独立音声各々がステレオの場合



TV/ADDボタンで 表示を選択します。

例 Aモードのテレビ音声がモノラル2系統の場合

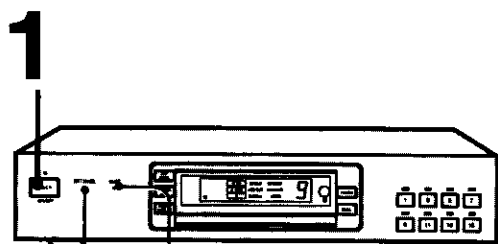


DUALボタンで 表示を選択します。

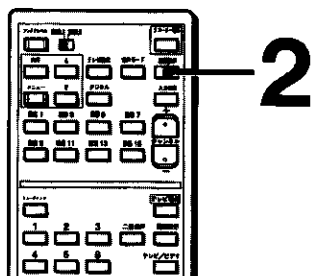
外部入力からのMUSE信号を見るには

将来的に考えられるハイビジョン関連機器を接続して、本機をMUSEデコーダーとして使用することもできます。まず、各機器と接続、テレビ/モニターの電源を入れてください。

自動的に外部入力に切り換える方法については、「デコーダー入力切換をするには」(●ページ)をご覧ください。



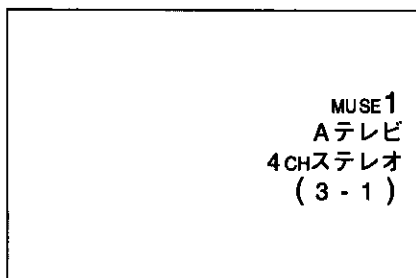
EXT MUSE ランプ MUSEランプ



- 1 電源を入れる。
- 2 入力切換ボタンを押す。
EXT MUSEランプが点灯します。

テレビ/モニターの画面表示

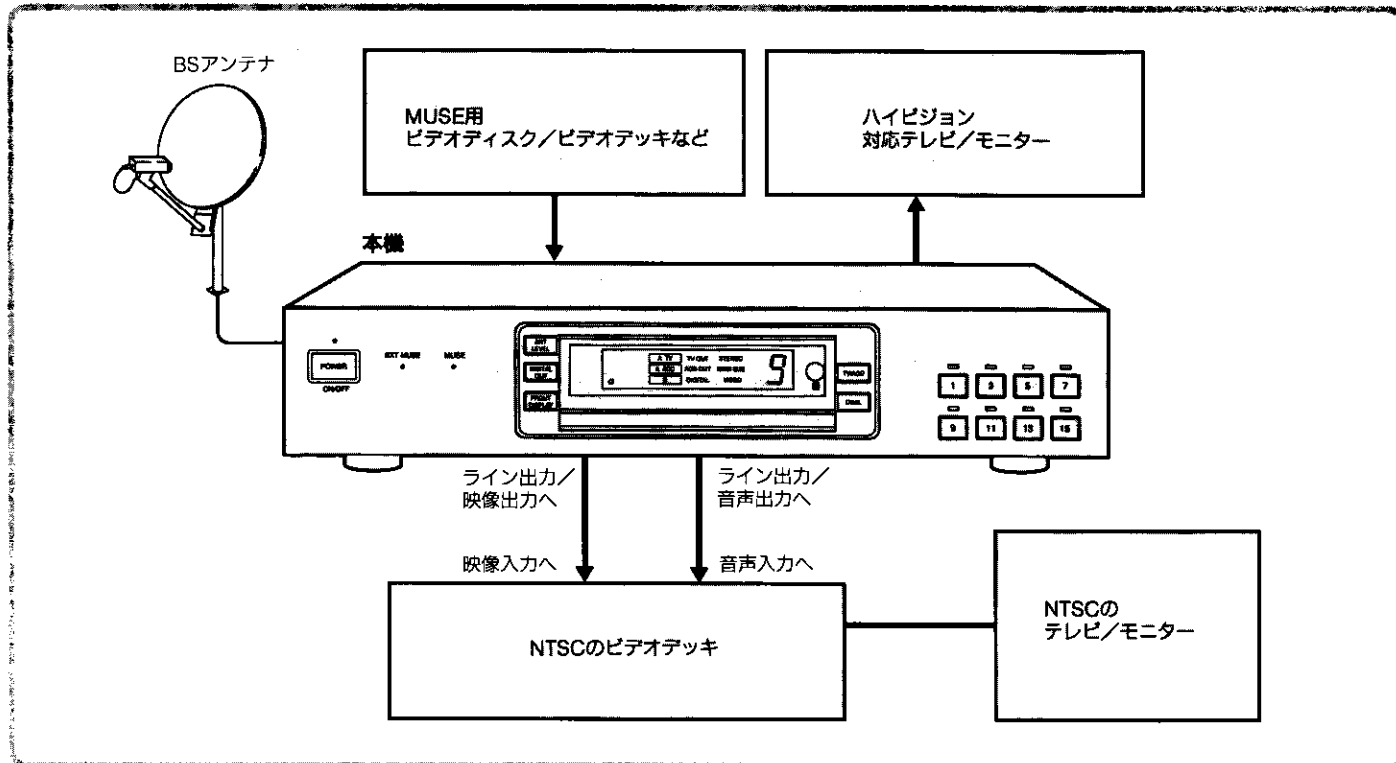
例) 外部入力からのMUSE信号が、Aモードのテレビ音声でステレオの場合



便利な使いかた

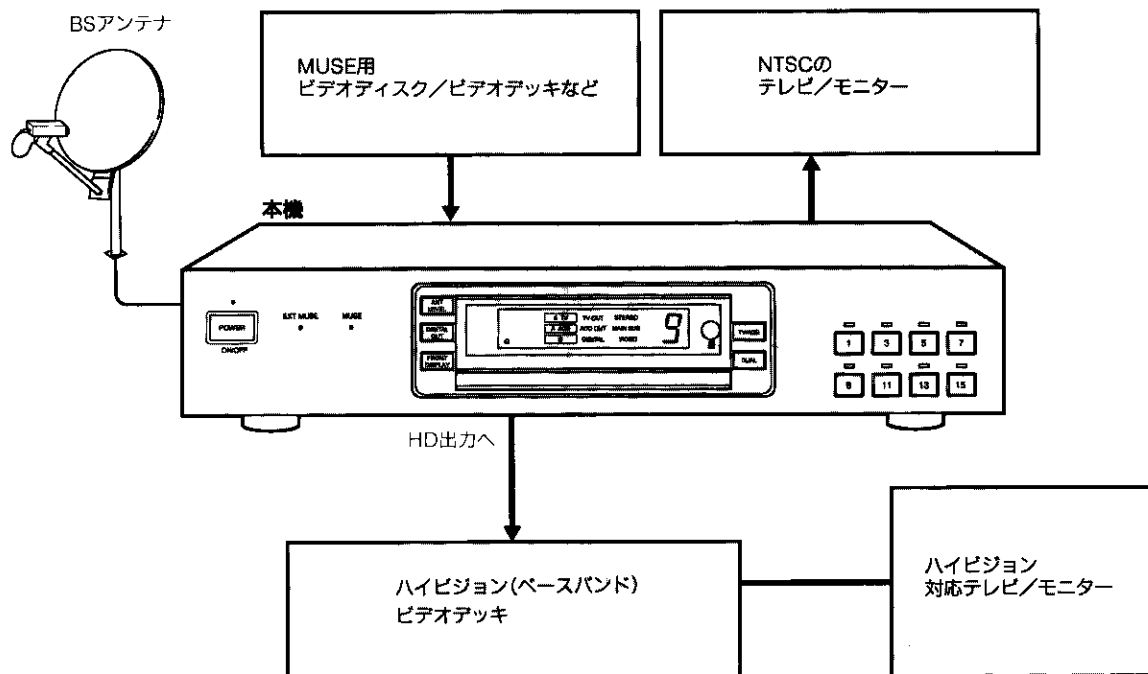
外部MUSE入力からの画像を見ながらBS放送を録画する

下のように各機器を接続すれば、本機内蔵のMUSEデコーダーを使用しながら通常のBS放送を録画することができます。



BS放送を見ながら外部入力の画像を録画する

下のように各機器を接続すれば、本機内蔵のBSチューナーを使用しながら外部入力からのMUSE信号をデコードしたハイビジョンのベースバンド信号を録画することができます。



操作

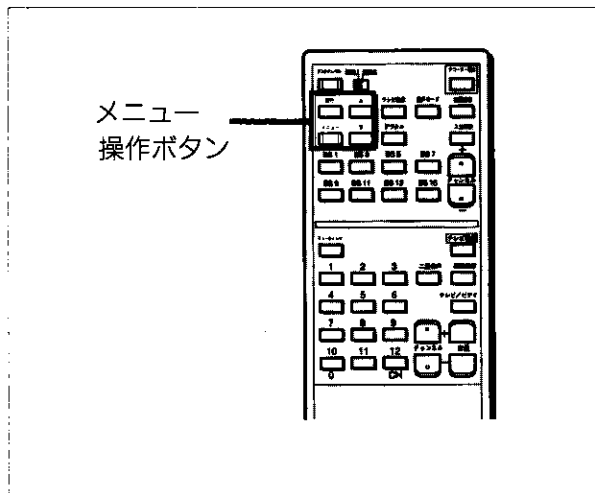
外部入力からのMUSE信号を見るには



ハイビジョン用ベースバンドのビデオデッキは将来的に考えられていますが1992年現在まだ商品化されていません。

本機ではメニュー画面を使って操作や設定ができます。
詳しくは、それぞれの項目の説明をご覧ください。

メニュー画面の操作



- 1 メニューボタンを押す。
- 2 ◀▶ボタンで設定したい項目や表示を選ぶ。
- 3 実行ボタンで決定する。
- 4 2と3をくりかえす。
- 5 メニューボタンでもとの画面に戻る。

メニュー画面の種類

チャンネル設定画面

放送のあるチャンネルを「入」に設定しておく
とチャンネル+/-ボタンで選べます。
また見ないチャンネルを「切」にして
おくともチャンネル+/-ボタンを押しても
映らないようにできます。(使いかたは●ページ)

チャンネル設定

▶ BS 1 : 切 BS 9 : 入
BS 3 : 切 BS 11 : 入
BS 5 : 入 BS 13 : 切
BS 7 : 入 BS 15 : 切

◀▶で選択して(実行) 終了(メニュー)

デコーダー入力切替画面

スクランブルのかかったチャンネルを映し
たときに自動的にデコーダー入りに切り換
わるように設定しておくことができます。
(使いかたは●ページ)

デコーダー入力切替

▶ BS 1 : 切 BS 9 : 切
BS 3 : 切 BS 11 : 切
BS 5 : 切 BS 13 : 切
BS 7 : 切 BS 15 : 切

◀▶で選択して(実行) 終了(メニュー)

MUSE出力設定画面

接続しているハイビジョン機器に合わせて、
HD出力を切り換えます。(使いかたは●ページ)

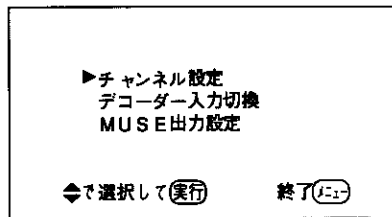
MUSE出力設定

▶ ● YPBR
GBR

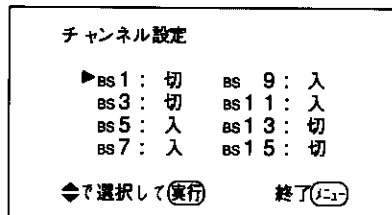
◀▶で選択して(実行) 終了(メニュー)

チャンネル設定をするには

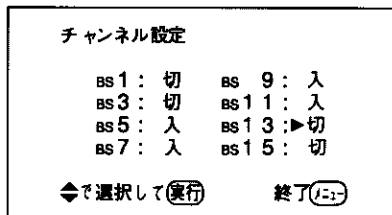
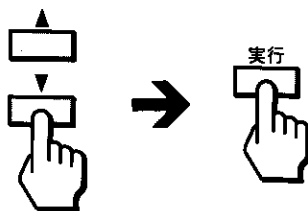
1 リモコンのメニューボタンを押す。



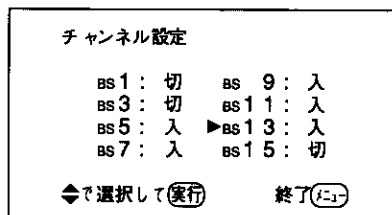
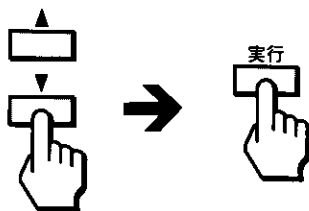
2 ◀ボタンでカーソル▶を「チャンネル設定」に合わせ実行ボタンを押す。



3 ▶ボタンでカーソル▶を設定したいチャンネルに合わせ実行ボタンを押す。



4 ▶ボタンで、「入」または「切」を選び実行ボタンを押す。



5 設定が終わったらメニューボタンを押す。



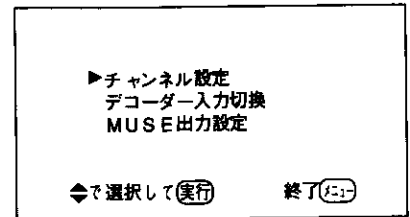
もとの画面に戻ります。

知っている
と便利
チャンネル設定をするには
メニュー画面について

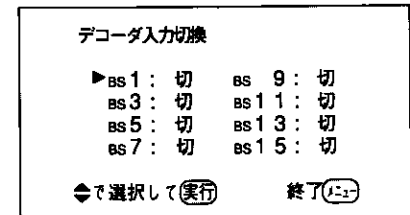
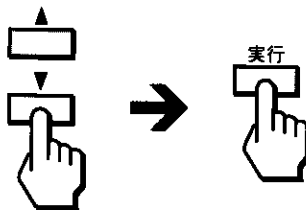
デコーダ入力切換をするには

例：BS5チャンネルでスクランブルのかかったBS放送を見る。(接続は⑩ページ)

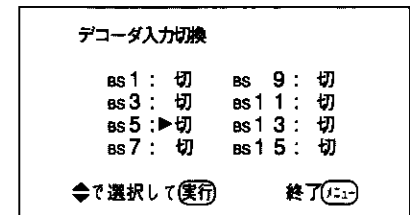
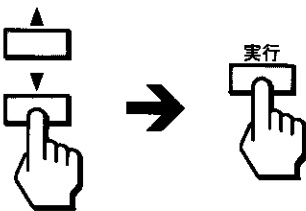
1 リモコンのメニューボタンを押す。



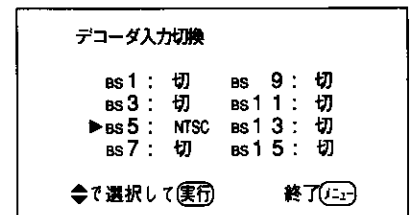
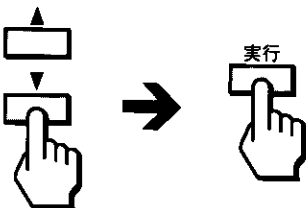
2 ◀ボタンでカーソル▶を「デコーダ入力切換」に合わせ実行ボタンを押す。



3 ▶ボタンでカーソル▶を設定したいチャンネルに合わせて実行ボタンを押す。



4 ▶ボタンで「NTSC」、「MUSE1」、「MUSE2」、または「切」を選び実行ボタンを押す。



設定	映る入力(端子)	画面表示	EXT MUSEランプ
NTSC	ライン入力	ビデオ	—
MUSE 1	MUSE/入力 1	MUSE 1	点 灯
MUSE 2	MUSE/入力 2	MUSE 2	点 灯

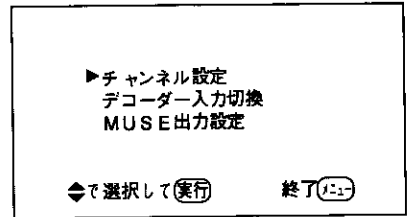
5 設定が終わったらメニューボタンを押す。



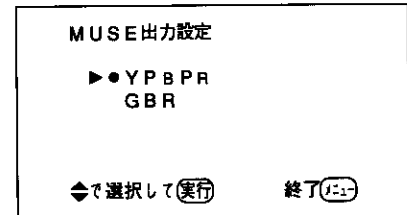
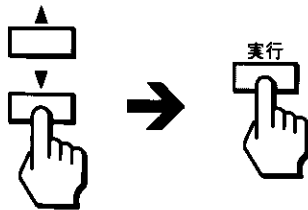
もとの画面に戻ります。

MUSE出力設定をするには

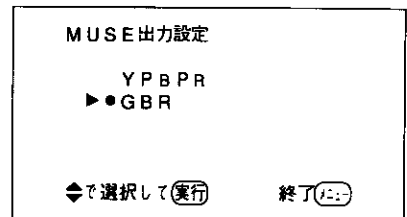
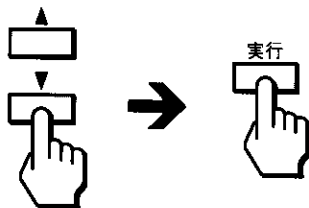
1 リモコンのメニューボタンを押す。



2 ◀ボタンでカーソル▶を「MUSE出力設定」に合わせ実行ボタンを押す。



3 ◀ボタンでカーソル▶を接続機器の映像信号形式(YP_BP_RあるいはGBR)に合わせて選び実行ボタンを押す。



4 設定が終わったらメニューボタンを押す。



もとの画面に戻ります。

知っている
と便利
MUSE出力設定をするには
デコーダー入力切換をするには

ご注意

接続する機器によってどちらかの端子（ピンジャックまたはBNCコネクター）を選んでお使いください。両方に接続すると、画面が暗くなったり画像が流れたりします。

受信方式 BS衛星放送方式、MUSE信号、NTSCカラー周波数シンセサイザ一選局方式

受信チャンネル BS1、3、5、7、9、11、13、15

アンテナ入力 BS IF：75 Ω F型コネクタ
(BSコンバーター用電源出力DC15V、最大4W、心線側+、入/切スイッチ付き)

ハイビジョン放送受信時、HD入出力

映像出力 BNCコネクタ（1系統）またはピンジャック（1系統）

YPbPr形式

Y：三値同期付 1.0Vp-p 75 Ω

P_B： } 三値同期付 ±0.35Vp-p 75 Ω

P_R： } うち同期信号 ±0.30Vp-p

GBR形式

G： } 0.7Vp-p 75 Ω

B： } 三値同期付 (Sync on Green)

R： }

デジタル音声出力 同軸：ピンジャック (EIAJ)*
光：角形コネクタ

MUSE入力 ピンジャック 75 Ω 0.4Vp-p (FM)
(2系統) 0.8Vp-p (AM)

MUSE出力 (検波出力) ピンジャック 75 Ω 0.4Vp-p

ビットストリーム出力 ピンジャック 75 Ω 0.5Vp-p

AFC入出力 ピンジャック 75 Ω 0.5Vp-p

*EIAJ (日本電子機械工業会) 規格による測定値です。

音声出力 5CH (ピンジャック)

平均出力レベル 250mVrms
(Fs-18dB 1kHz時)

最大出力レベル 2.0Vrms

出カインピーダンス 1k Ω以下

	Aモード	Bモード
周波数特性 +1 dB以内 -3	50Hz~15,000Hz	50Hz~20,000Hz
S/N比 (Fs-dB時)	60dB以上	60dB以上
チャンネルクロストーク (Fs入力時)	-60dB以下 (125Hz~10,000Hz)	-60dB以下 (125Hz~10,000Hz)

BS放送受信時 ライン (NTSC) 入出力

ライン出力	映像	ピンジャック (1系統)、1Vp-p 75Ω 不平衡、同期負
	音声	ステレオ：ピンジャック (1系統) 平均出力レベル 250mVrms 最大出力レベル 2.0Vrms 出力インピーダンス 1kΩ以下

	Aモード	Bモード
周波数特性 ±0.5dB	2Hz~15kHz	2Hz~22kHz
ダイナミック レンジ	80dB以上	90dB以上
高周波 ひずみ率 (1kHz)	0.07%以下	0.007%以下 (1kHz)
SN比	90dB以上	90dB以上

ライン入力	映像	ピンジャック、1Vp-p 75Ω 不平衡、同期負
	音声	ピンジャック、2チャンネル 500mVrms (100%変調時)
デジタル音声出力	同軸：ピンジャック (EIAJ) 光：角形コネクタ	
検波出力	ピンジャック、75Ω、0.67Vp-p	
ビットストリーム出力	ピンジャック、75Ω、0.5Vp-p	
コントロールS入力	ミニジャック	
コントロールS出力	ミニジャック	

その他

電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	65W(スタンバイ時 7W)
最大外形寸法	470×92×350mm (サイドウッド付き) (幅/高さ/奥行き)
質量	7.9kg
付属品	リモートコマンダーRM-J134 (1) 乾電池 (SUM-3 単3) (2) BNC-マルチケーブル (1) HD音声ケーブル (1) 映像・音声ケーブル (1) ケースとめネジ (4) 取扱説明書 (1) 保証書 (1) サービス窓口・ご相談窓口のご案内 (1)

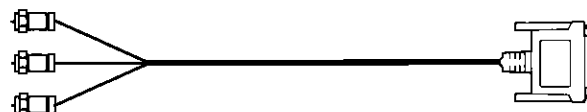
リモートコマンダーRM-J134

リモコン式	赤外線パルス方式
電源	DC3V 乾電池 (SUM-3 単3) 2個
最大外形寸法	67×19×175mm (幅/高さ/奥行き)
質量	140g (乾電池含む)

付属のケーブル

BNC-マルチケーブル

(BNCコネクタ3個、マルチコネクタ1個)



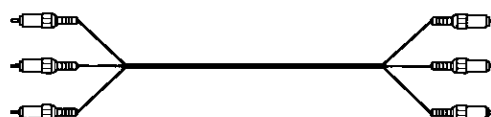
HD音声ケーブル

(ピンプラグ5個×2)



映像・音声 (NTSC) ケーブル

(ピンプラグ3個×2)



本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

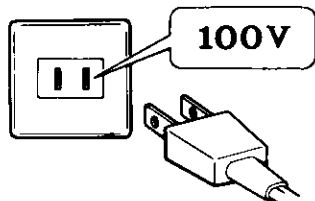
本機は日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。

使用上のご注意

安全上のご注意

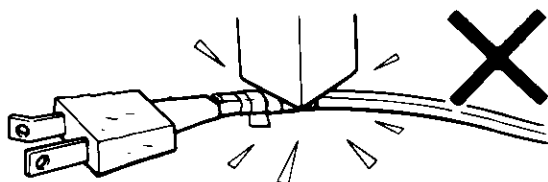
電源について

家庭用電源コンセント（AC100V）につないでご使用ください。
国内用ですので海外ではご使用になれません。

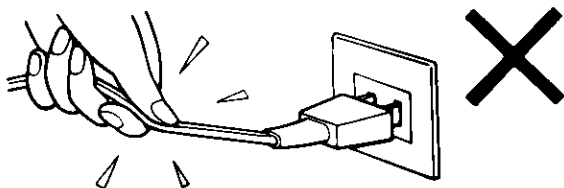


電源コードについて

電源コードを無理に曲げたり、上に重い物をのせたりしないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因になります。傷がついたコードは使わないでください。

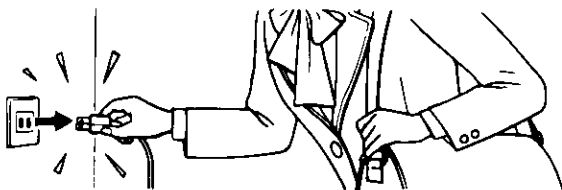


電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。



留守にするときは

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。



重いものはのせないでください

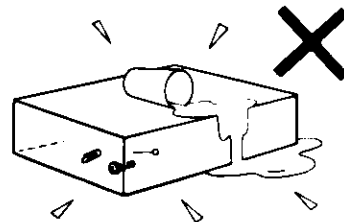
キャビネットを傷めたり、故障の原因になります。

感電を防ぐために

キャビネットは、絶対にはずさないでください。
内部に手を触れると感電することがあり危険です。
本体のお手入れのときは、万一の感電を防ぐため必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

異物について

内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや、金属類を落とさないでください。そのまま使用すると火災や感電、故障、事故の原因となります。



異常や不具合が起きたら

万一異常や不具合が起きたとき、異物が中に入ったときは、電源を切り、電源コードを必ずコンセントから抜いて、すぐにお買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

取り扱い上のご注意

避けてほしい場所

本機を長い間お使いいただくためにつぎのような場所での使用および保存は避けてください。

- ・極端に暑い所や寒い所
- ・湿気の多い所
- ・ほこりの多い所
- ・激しい振動のある所

放熱について

内部の温度上昇を防ぐため裏面にはファンが内蔵されています。
上面および裏面に放熱孔がついています。ご使用中には次のことにご注意ください。

- ・放熱孔はふさがらないでください。
- ・ラックに収納する際は通気に十分お気をつけください。
- ・背面にはファンの吹き出し孔がありますので、ふさがないようにしてください。
- ・UHF/VHFのテレビチューナーやビデオなどと重ねると、妨害を与える可能性があります。できるだけ離して置いてください。

お手入れ

キャビネットは、柔らかい布でおふきください。
キャビネットの汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤液に柔らかい布をひたし、固くしぼってから汚れをふきとります。
このあと乾いた布でカラふきしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

故障とお考えになる前に

修理にお出しになる前にもう一度点検してみましょう。

症 状	原因/処置
衛星放送が映らない。	<ul style="list-style-type: none"> ・BSアンテナと直接つないでいる場合、(マンションなどの共聴システムではない場合)コンバーター用電源が「入(運動)」になっていますか。 ・衛星の方向に障害物がありませんか。障害物のない所に設置してください。
衛星放送の映りが悪い。	<ul style="list-style-type: none"> ・接続を確認してください。 ・MUSE映像信号の出力形式をGBRに設定していませんか? ・BSアンテナの方向および、障害物がないかをチェックしてください。 ・BSアンテナ/BSコンバーターとBSチューナーの接続にBS専用同軸ケーブル、BS専用コネクタを使用していますか。 ・マンションなどの共聴システムでコンバーター用電源が「入(運動)」になっていませんか? ・BS(NTSC)とMUSEを同時に受信していませんか?
テレビ/独立音声切り換えボタンを押しても独立音声にならない。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ音声の放送しかないときは独立音声は選べません。
音声モードボタンを押しても、主あるいは副を選べない。	<ul style="list-style-type: none"> ・二重音声がないときは、主/副音声を選べません。
チャンネル表示が画面から消えない。	<ul style="list-style-type: none"> ・リモコンの画面表示ボタンをもう一度押してください。
画面表示が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・画面表示はライン出力とHD出力、両方同時に出ることはありません。 ・ライン出力から映像出力をとっていませんか?
電源が自動的に切れてしまう。	<ul style="list-style-type: none"> ・本体とコンバーターとの間のケーブルが途中でショートしていませんか?原因を取り除いた後、再び本体の電源スイッチで電源を入れ直してみてください。
リモコンがきかない。	<ul style="list-style-type: none"> ・DBS2になっていますか。 ・電池がきれいでいませんか? (7ページ)
通常のテレビ放送を見ているとき、画面にピート(しま状のノイズ)が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビアンテナ端子の接続には、75Ω同軸アンテナケーブルを使用してください。 ・BSチューナー本体やケーブルを、テレビのアンテナケーブルからできるだけ離してください。

その他

故障とお考えになる前に
使用上のご注意

ハイビジョンについて

ハイビジョンとは

ハイビジョンは現行のテレビ方式に対して、より高精細で臨場感のあるワイドテレビとして日本(NHK)で開発された次世代のテレビ方式です。

現行のテレビ方式との比較でハイビジョンの特長を簡単に表現すると次のようになります。

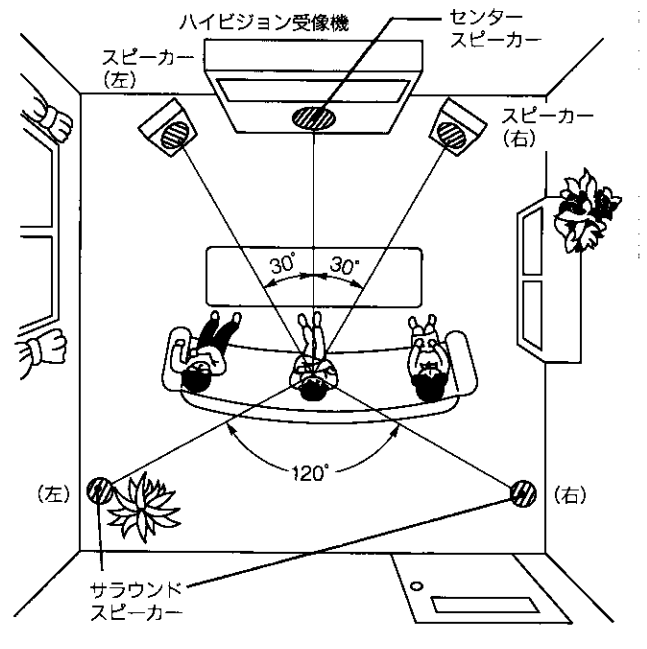
- ・走査線が1125本と現行テレビの525本の2倍以上あり、画面がワイドになったことと合わせて現行テレビの約5倍の情報量(細かさ)をもっています。その画質は35mmフィルムに匹敵するほど高精細になっています。
- ・画面の縦横比は9:16(現行テレビは3:4)と横長で、映画の画面とほぼ同じ比率になっています。そのため映画やスポーツ中継などに最適な画面が得られます。

- ・画面の高精細化により最適視距離が近くなり、現行テレビが画面の高さの6、7倍であるのに対し、3倍の距離となります。これと画面のワイド化によって視野角がより広がり、臨場感・迫力が格段に向上します。
- ・ハイビジョンの音声は高い音質が得られるPCMで、臨場感にすぐれた4チャンネルステレオ方式や、ステレオによる2か国語放送を採用しています。

■ハイビジョン方式と現行テレビ方式 (NTSC) の比較

項目	方式	ハイビジョン (スタジオ規格)	NTSC
走査線数(本)		1125	525
アスペクト比		16:9	4:3
インターレース比		2:1	2:1
フィールド周波数(Hz)		60	59.94
映像信号(帯域)(MHz)	輝度信号 Y	30	4.2
	色差信号 R-Y	30	1.5
	B-Y	30	0.5
		または、R、G、 B各30MHz	

■3-1方式4チャンネルステレオの基本的なスピーカー配置例



→表で示すように、ハイビジョンと現行テレビ方式とでは互換性はないので、ハイビジョン用の新しい受像機が必要となります。

ハイビジョン放送とMUSE方式について

ハイビジョンの原信号（ベースバンド信号）は、非常に周波数帯域が広いのでそのまま放送するには十数チャンネルの帯域幅を必要とし、現行の地上放送（VHF、UHF）では信号を送ることが困難です。このため放送の信号帯域幅が最も広く、ハイビジョン放送を全国一律に届けること

のできる衛星放送が最適の放送手段として採用されました。そこで、衛星放送の1チャンネル分の帯域幅に圧縮して伝送する技術が必要になりNHKで開発されたのが、MUSE*方式です。
サブ ナイキスト サンプリング エンコーディング
*MUSEはMultiple Sub-Nyquist Sampling Encodingの略です。

ハイビジョンの原信号をMUSE信号に圧縮するには

衛星放送の1チャンネルの帯域幅は27MHzありますが、衛星放送に適した変調方式であるFMを用いるためには、ハイビジョンの原信号を約8MHzに制限しなければなりません。それにはまず前処理としてハイビジョンの原信号の帯域を削って輝度信号を20MHz、2つの色差信号を

7MHzとします。この程度帯域を削っても家庭での視聴条件を満足する品質の画質は得ることができます。この信号を多重サンプリングという方式でデジタル化し、約8MHzの帯域幅に圧縮したものがMUSE信号です。

MUSE方式の画像伝送方法について

MUSE方式は、1画面を、粗い画面である4つのフィールドに分けて伝送します。受信側には画像メモリーを設け、送られてきた4フィールドのデータから1画面を再現します。これだけですと静止画はほぼ完全に再生することができますが、動いている部分は、ずれて四重に見えてしま

います。このため、動画の部分は単一フィールドから1画面を再現します。動画部分は静止画より若干解像度が落ちてしまいますが、視覚特性上許容できる範囲です。

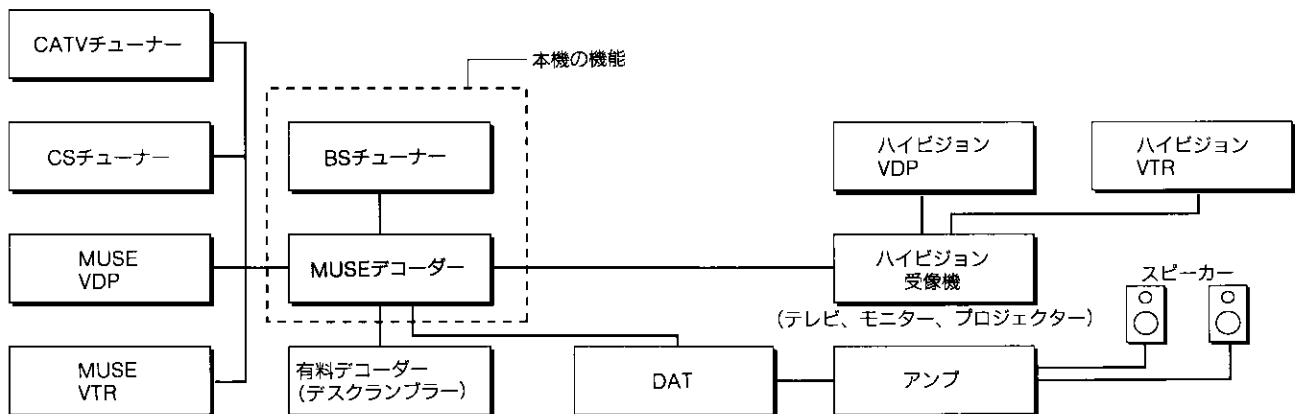
⇒上記により、ハイビジョン放送を受信するためには、MUSE対応の衛星放送チューナーおよびMUSEデコーダーが必要となります。

ハイビジョン関連機器

ハイビジョン関連機器の中には現在開発中で数年後に実用化されるであろう機器がいくつかあります。それらと組みあわせてハイビジョンの

システムアップが可能になります。機器の接続は次のように考えられます。

■システムアップ想像図



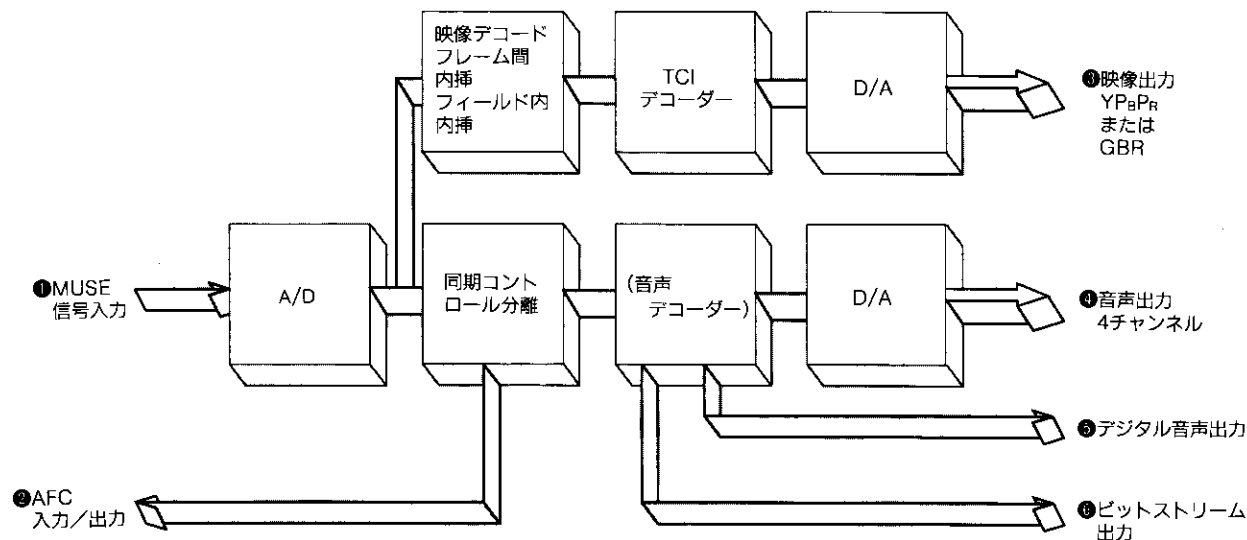
この図はあくまでも想像図です。図の中の機器はほとんど開発中のものですのでご了承ください。

ハイビジョンについて(つづき)

MUSEデコーダーについて

MUSE方式で送られてきた信号をハイビジョンの原信号へデコード(復調)する役目をするのがMUSEデコーダーです。その構成図を下に示します。

■MUSEデコーダー構成図



① MUSE 信号入力

MUSE信号を入力します。ハイビジョン放送のMUSE信号を入力する場合は信号帯域幅が8MHzありますので、MUSE対応のBSチューナーが必要です。またこのとき、AFCパルス信号の接続を行ってください。なお、本機MST-2000の場合は、内蔵BSチューナーに本体内で接続されています。

② AFC 入力/出力

ハイビジョン放送を正確に検波するために必要なパルス信号です。なお、本機MST-2000の場合は、内蔵BSチューナーに本体内で接続されています。

③ 映像出力

映像デコーダーで復調されたハイビジョン映像信号出力です。信号の形式は2種類、YPbPr (Y:輝度信号、Pb:色差信号・青Pr:色差信号・赤)とGBR (三原色信号、緑、青、赤)とがあります。この信号をハイビジョン用のディスプレイに接続することにより、ハイビジョンの画像を再生します。

④ 音声出力

音声デコーダーで復調されたアナログ音声出力です。4チャンネルの音声出力がありますので、そのとき放送音声形態に合わせて右、左、センター、サラウンド右、サラウンド左へ適切に配分を決めた後(本機MST-2000にはこの機能が内蔵されており、HD出力の5チャンネルの音声出力端子がそれに相当します)オーディオアンプへ接続する必要があります。

⑤ デジタル音声出力

デジタルオーディオ機器用のデジタル音声出力です。ハイビジョン放送で送られてきたデジタル音声データをそのまま出力します。

⑥ ビットストリーム出力

音声の識別コード等、各種のデータを出力します。将来発売が予想されるハイビジョン関連機器で、使用される可能性があります。

保証書とアフターサービス

保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

調子が悪いときは まずチェックを	➡	「故障とお考えになる前に」の項を参考にして、故障かどうかお調べください。
それでも具合の悪い ときはサービスへ	➡	お買い上げ店、またはお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
保証期間中の修理は	➡	保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
保証期間経過後の 修理は	➡	修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

型名：MST-2000

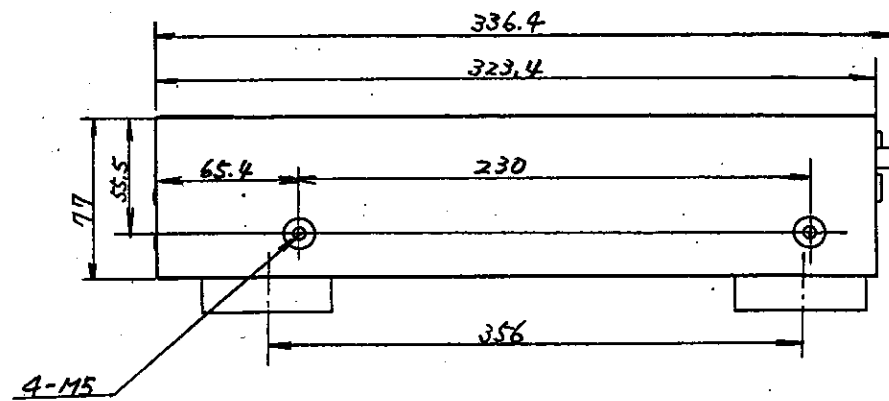
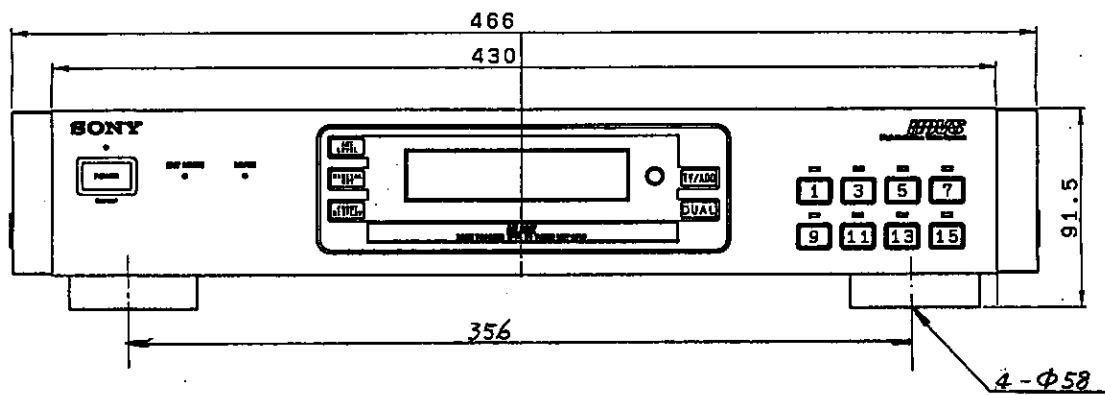
故障の状態：できるだけくわしく

購入年月日

お買い上げ店 TEL.
お近くのサービスステーション TEL.

その他

保証書とアフターサービス
ハイビジョンについて



MST-2000